"Performance" Through Chemistry

2024年3月期
決算説明資料

三洋化成工業株式会社
代表取締役社長　樋口　章憲

コード：4471

Sanyo Chemical

＜注意事項＞

この資料に記載している金額は表示単位未満を切り捨てで、その他、比率等は表示単位未満を四捨五入しております。

＜免責事項＞

この資料には、2024年5月17日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測等が含まれています。
世界経済・競合状況・為替の変動・原料価格の動向等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予測と大幅に異なる可能性があります。

＜IRに関するお問い合わせ＞

三洋化成工業株式会社
経営企画本部　広報部
E-mail：pr-group@sanyo-chemical.group

2024年3月期業績

（億円，%）

連 結	’23年3月期	’24年3月期	前期比	
			増減額	増減率
売上高	1,749.7	1,595.1	▲154.6	▲8.8
営業利益	81.2	48.8	▲32.3	▲39.8
経常利益	99.1	81.8	▲17.3	▲17.5
親会社株主に帰属する当期純利益	56.8	▲85.0	▲141.8	–
包括利益	57.2	▲33.9	▲91.2	–

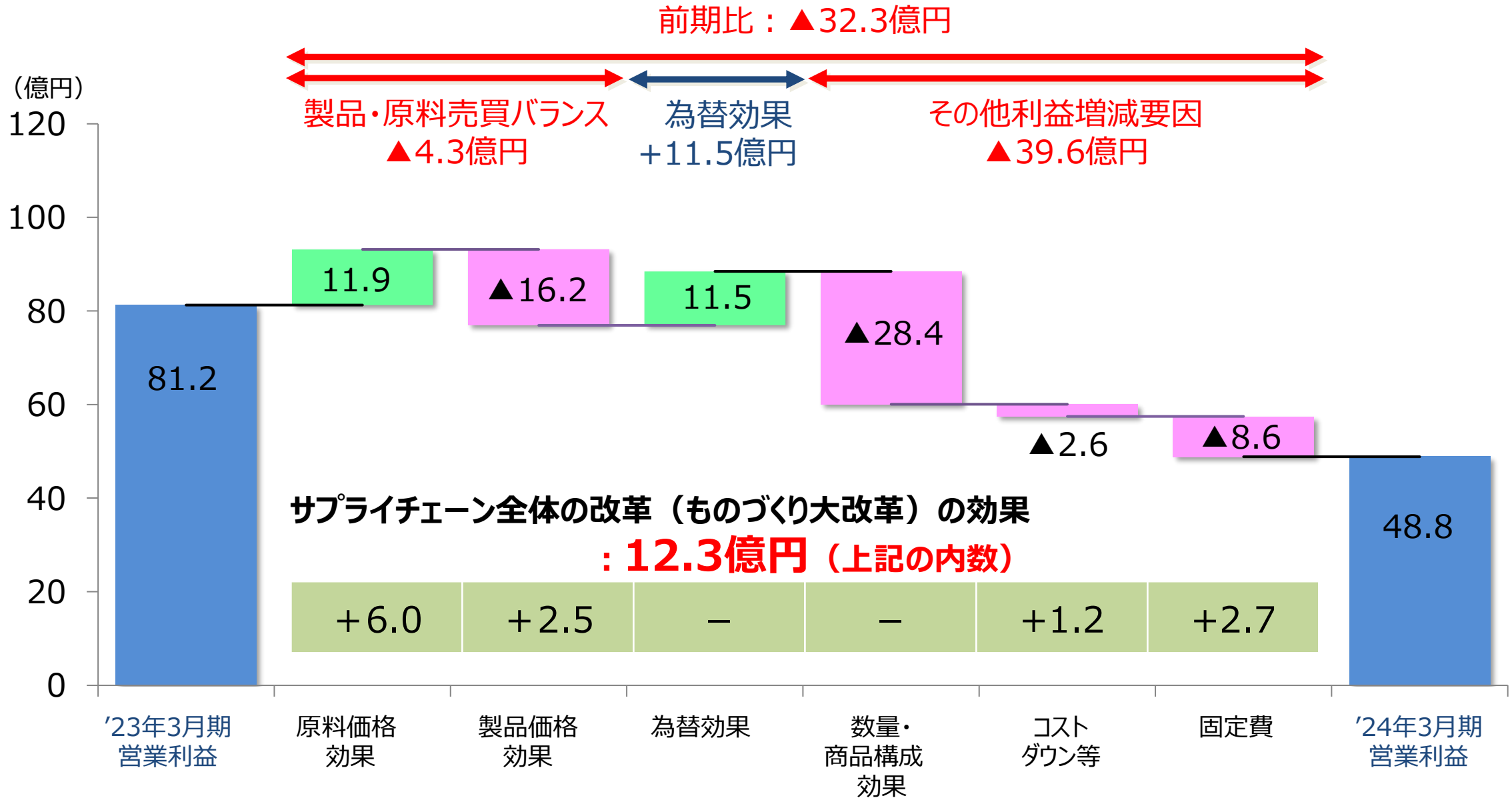
＊基幹システムの変更を契機に各事業の業績評価方法を見直したことにより、従来、「営業外費用」に含まれていた「棚卸資産廃棄損」は当第１四半期連結会計期間から「売上原価」に含めて表示しております。
なお、当スライド以降の営業利益については、組み換え後の数値を表示しております。

連結産業分野別業績

（億円）

産業分野	売上高			営業利益		
	’23年3月期	’24年3月期	増減額	’23年3月期	’24年3月期	増減額
生活・健康産業関連	570.6	458.9	▲111.7	0.2	▲14.2	▲14.4
生活産業関連	149.2	131.2	▲17.9			
健康産業関連	421.4	327.6	▲93.8			
石油・輸送機産業関連	482.7	504.7	21.9	29.3	28.1	▲1.1
プラスチック・繊維産業関連	281.7	252.3	▲29.4	27.8	23.6	▲4.1
プラスチック産業関連	199.6	178.6	▲20.9			
繊維産業関連	82.1	73.7	▲8.4			
情報・電気電子産業関連	231.6	228.7	▲2.9	25.0	18.3	▲6.7
情報産業関連	134.3	138.2	3.9			
電気電子産業関連	97.3	90.4	▲6.8			
環境・住設産業関連他	182.8	150.3	▲32.5	13.7	5.3	▲8.3
新規事業に係る研究開発費				▲15.0	▲12.5	2.5
合計	1,749.7	1,595.1	▲154.6	81.2	48.8	▲32.3

連結営業利益の前期比増減要因



連結純利益の前期比増減要因

（億円）

	’23年3月期	’24年3月期	増減額
営業利益	81.2	48.8	▲32.3
持分法投資益	4.6	2.2	▲2.4
為替差益	11.0	17.1	6.0
その他営業外損益	2.1	13.6	11.4
経常利益	99.1	81.8	▲17.3
投資有価証券売却益、評価損	26.1	15.9	▲10.2
固定資産除却損	▲10.9	▲13.7	▲2.7
減損損失	▲13.2	▲32.3	▲19.0
構造改革費用	–	▲120.5	▲120.5
その他の特別損益	▲6.9	▲4.5	2.3
税金等調整前当期純利益	94.1	▲73.4	▲167.6
法人税等	▲31.8	▲12.9	18.9
非支配株主に帰属する当期純利益	▲5.4	1.3	6.7
親会社株主に帰属する当期純利益	56.8	▲85.0	▲141.8

連結貸借対照表

（億円）

	2023年 3月31日	2024年 3月31日	増減額	主な増減要因
流動資産	973	1,059	86	現金及び預金（101）、原材料及び貯蔵品（▲13）
固定資産	1,048	998	▲49	建物及び構築物（▲33）、機械装置及び運搬具（▲48）、投資有価証券（31）
資産合計	2,021	2,058	36	
流動負債	469	535	65	買掛金･電子記録債務（36）、未払金（26）
固定負債	62	107	44	
負債合計	531	642	110	
株主資本	1,323	1,201	▲122	当期純利益（▲85）、配当金支払（▲37）
その他 包括利益	137	189	51	為替換算調整勘定（13）
非支配株主持分	29	25	▲3	
純資産合計	1,489	1,415	▲74	
負債･純資産合計	2,021	2,058	36	

連結キャッシュフロー計算書

Sanyo Chemical

（億円）

	’23年3月期	’24年3月期	増減額	特記事項
営業活動CF	108	198	89	
税金等調整前純利益	94	▲73	▲167	
減価償却費	102	108	5	
持分法投資益	▲4	▲2	2	
減損損失	13	32	19	
構造改革費用	–	120	120	
投資有価証券売却益	▲27	▲20	6	
運転資金の増減	▲46	59	106	
法人税等	▲38	▲26	11	
その他	15	▲0	▲15	
投資活動CF	▲101	▲62	39	
フリーCF	6	135	128	
財務活動CF	▲23	▲40	▲16	
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	6	4	
現金及び現金同等物の増減額	▲14	101	116	
現金及び現金同等物の期首残高	181	170	▲11	
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	3	–	▲3	
現金及び現金同等物の期末残高	170	271	101	

主要経営指標

	単位	‘23年3月期	‘24年3月期	前期比
総資産	億円	2,021	2,058	+36
総資産経常利益率	%	4.9	4.0	▲0.9pt
自己資本	億円	1,460	1,390	▲70
自己資本比率	%	72.2	67.6	▲4.6pt
自己資本当期純利益率	%	3.9	▲6.0	▲9.9pt
ROIC	%	3.2	2.4	▲0.8pt

’25年3月期業績予想

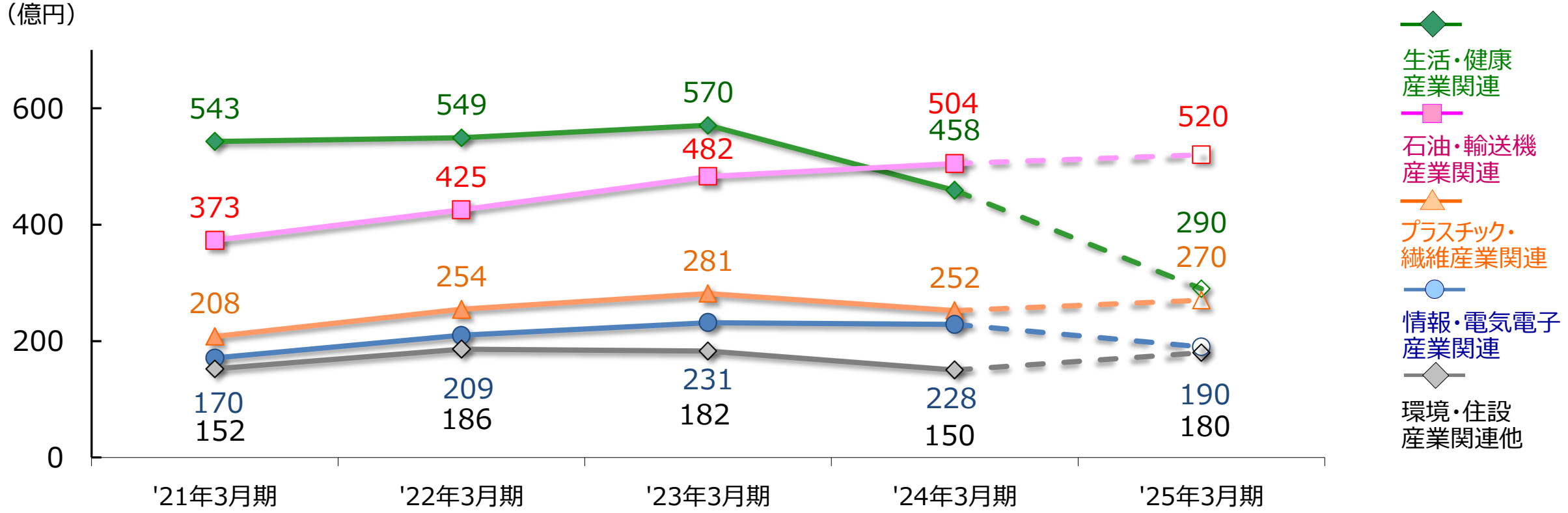
＜業績予想の前提条件＞

国産ナフサ価格：76千円／kl、為替レート：150円／ドル

（億円）

連 結	通 期			第2四半期（4-9月期）		
	’25年3月期 予想値	’24年3月期 実績	増減率 （%）	’25年3月期 第2四半期 予想値	’24年3月期 第2四半期 実績	増減率 （%）
売上高	1,450.0	1,595.1	90.9	750.0	792.7	94.6
営業利益	80.0	48.8	163.7	30.0	20.2	148.5
経常利益	95.0	81.8	116.0	40.0	49.4	80.8
親会社株主に帰属する当期純利益	25.0	▲85.0	–	25.0	43.9	56.8

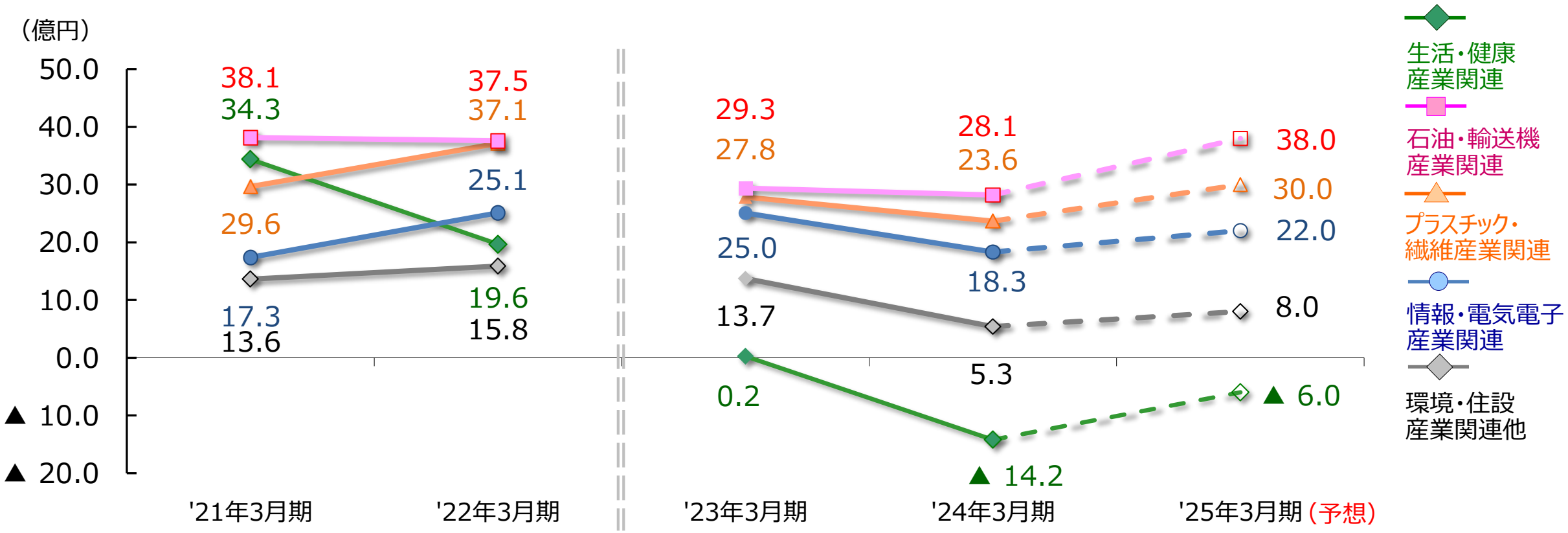
連結産業分野別売上高の推移



主な増減要因（前期比）

生活・健康	：液体洗濯洗剤用界面活性剤及びPEGは国内外ともに市況が低迷し、需要が減少したため売上高は減少。 SAPは日本及びアジアで販売数量が減少し、売上高は減少。
石油・輸送機	：PPGが海外安価品の流入により低調だったものの、潤滑油添加剤、TUBが好調に推移したため、売上高は順調に推移。
プラスチック・繊維	：永久帯電防止剤は電子部品需要低迷のため低調。塗料コーティング用薬剤・添加剤も中国向け需要が減少し売上高は減少。 風力発電用風車向けの炭素繊維集束剤が低調に推移。タイヤコード糸等の繊維製造用薬剤の需要回復遅れにより、売上高は低調。
情報・電気電子	：トナー関連材料の需要が減少したものの、原料価格高騰等による価格改定により売上高は横ばい。 半導体市場の回復により関連材料が増加したものの、アルミ電解コンデンサ用電解液が民生用の不調により、売上高は減少。
環境・住設、他	：高分子凝集剤用カチオンモノマーの需要が低迷。PPGおよび建築シーラント用原料の販売が減少。

連結産業分野別営業利益の推移



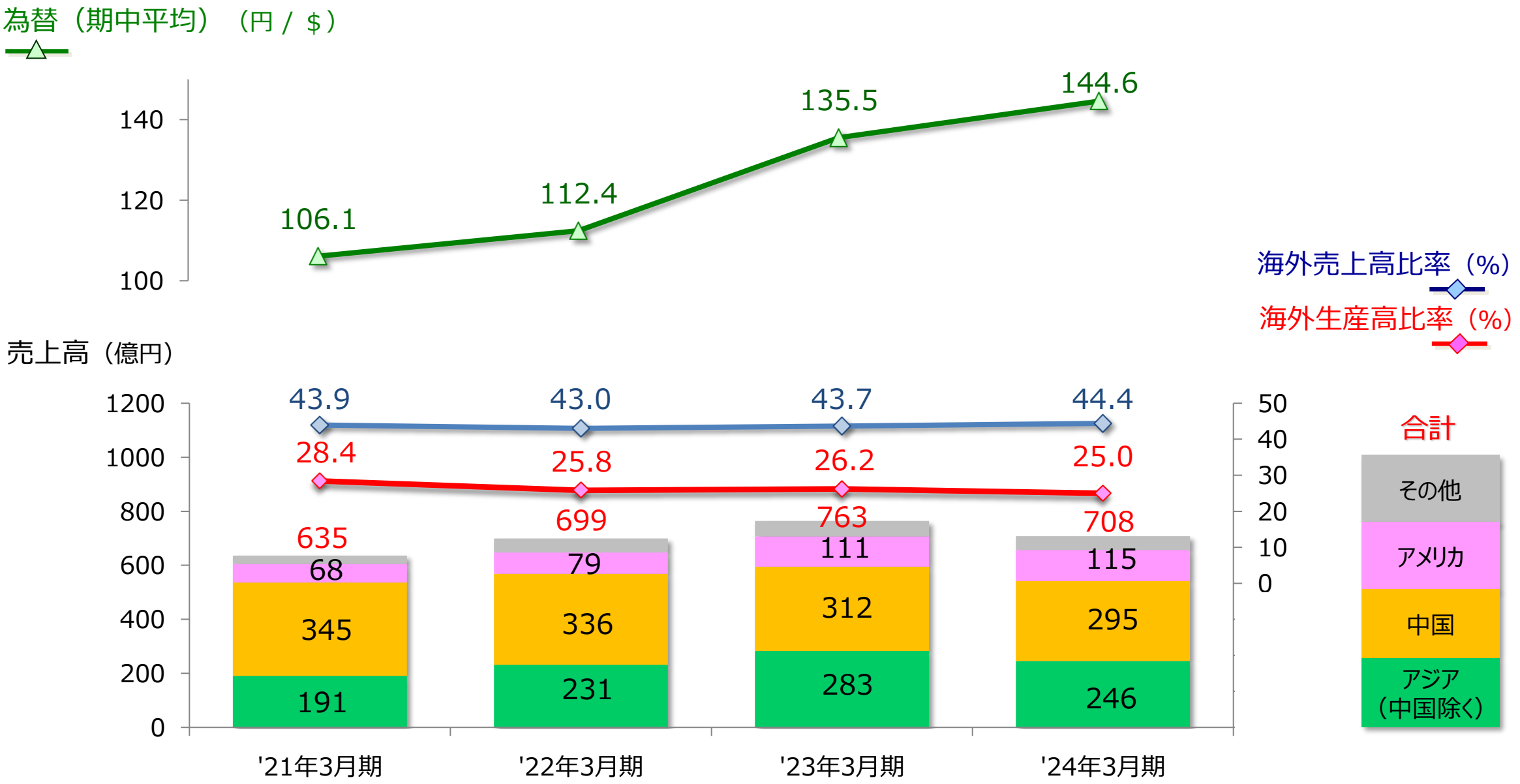
＊一部勘定科目の取り扱いの変更を受け、'21/4Q以前は組み換え前、'22/1Q以降は組み換え後の数値を表示しております。

新規事業に係る研究開発費（億円）

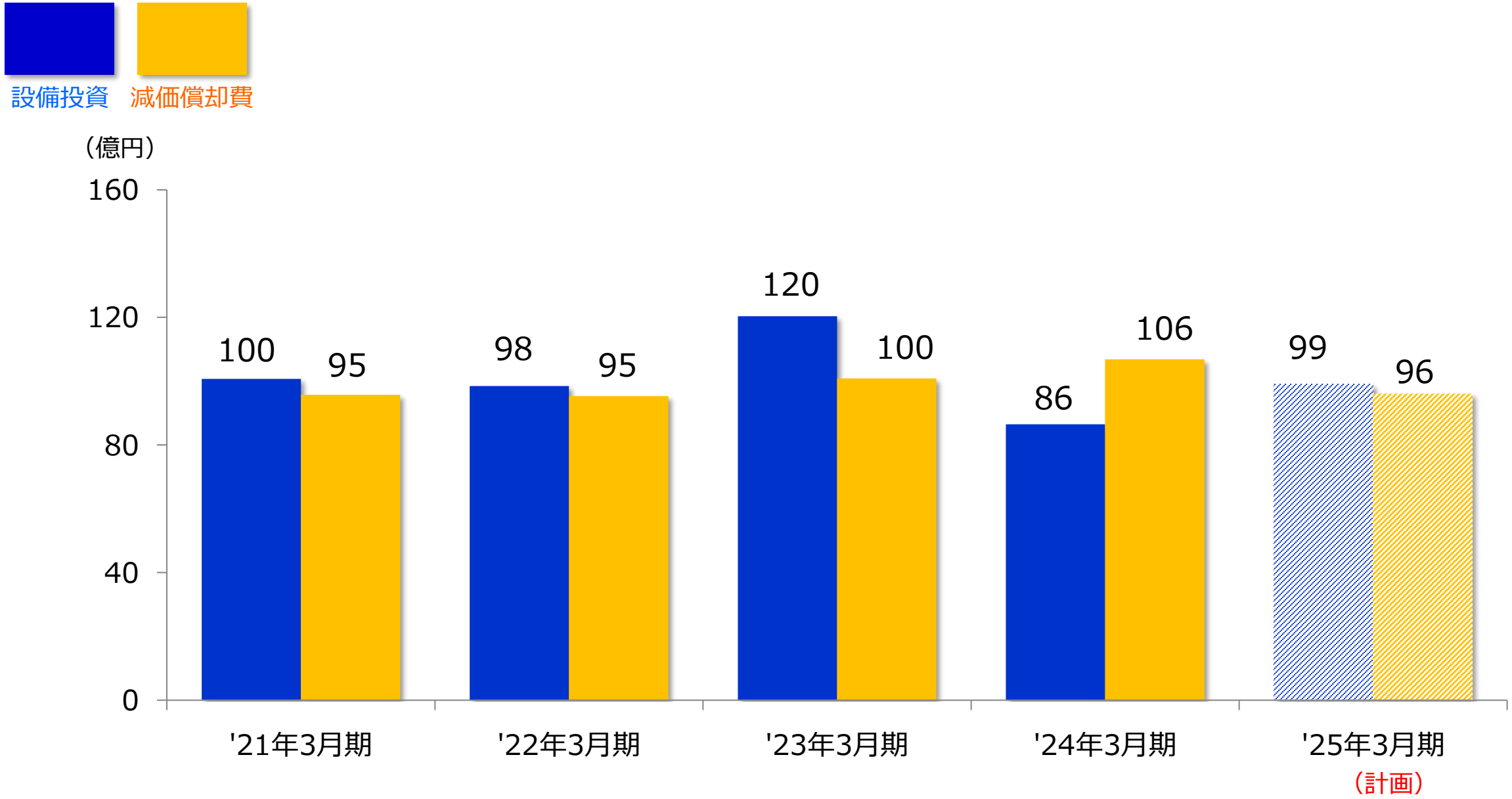
'21年3月期	'22年3月期	'23年3月期	'24年3月期	'25年3月期（予想）
▲13.8	▲16.7	▲15.0	▲12.5	▲12.0

従来各報告セグメントに配分しておりました新規事業に係る研究開発費を全社費用として計上し、欄外に記載しております。

海外売上高の推移


為替（期中平均）（円 / $）
140
120
100
106.1
112.4
135.5
144.6
海外売上高比率（%）
海外生産高比率（%）
売上高（億円）
1200
1000
800
600
400
200
0
50
40
30
20
10
0
43.9
43.0
43.7
44.4
28.4
25.8
26.2
25.0
635
699
763
708
68
79
111
115
345
336
312
295
191
231
283
246
'21年3月期
'22年3月期
'23年3月期
'24年3月期
合計
その他
アメリカ
中国
アジア
（中国除く）

設備投資と減価償却（連結）



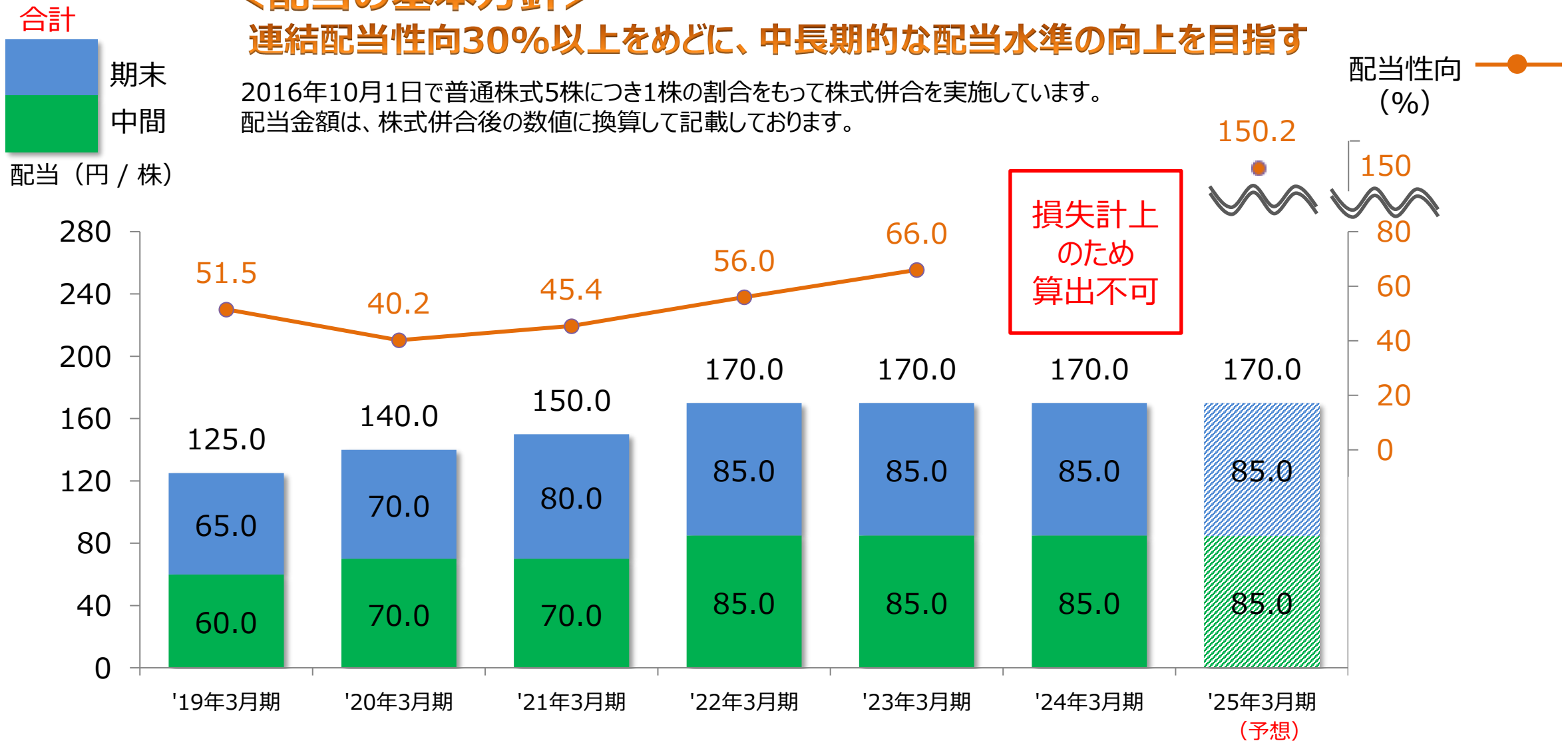
1株あたり配当と配当性向の推移（連結）

Sanyo Chemical

＜配当の基本方針＞

連結配当性向30%以上をめどに、中長期的な配当水準の向上を目指す

2016年10月1日で普通株式5株につき1株の割合をもって株式併合を実施しています。
配当金額は、株式併合後の数値に換算して記載しております。



TOPICS
～新中期経営計画2025の進捗について～

三洋化成のありたい姿（Vision）

Sanyo Chemical

全従業員が誇りをもち、働きがいを感じる
グローバルでユニークな高収益企業に成長する

化学のちからで化学の枠を越えて
イノベーションを起こす

三洋化成のありたい姿（Mission,Values）

Sanyo Chemical

社是「企業を通じてよりよい社会を建設しよう」

実現したい社会
・環境と調和した循環型社会
・健康・安心にくらせる社会
・一人ひとりがかがやく社会

Sanyoの貢献

環境を支える	人とくらしを支える	多様性を支える
カーボンニュートラルへの貢献	QOLの向上	働きがいの向上

大切にすること（Values）
・すべてのステークホルダーのワクワク
・環境・社会的価値と経済価値をステークホルダーと共創*
・社員一人ひとりが価値の創出に貢献

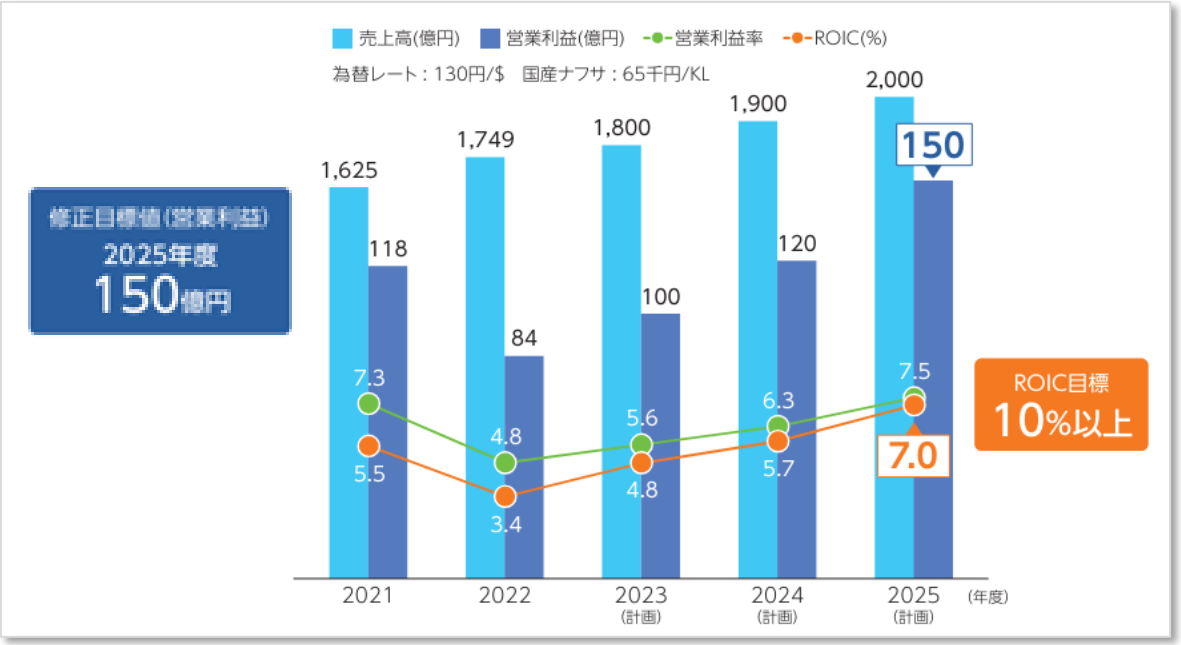
*) 共創：全ステークホルダーと共に価値を築き上げていく

新中計2025で目指す姿

2030年のありたい姿の実現に向けて、新中期経営計画2025にて着実に成長戦略を遂行する

数値目標

- 2025年度営業利益150億円
- 中長期的にROIC10%以上を目指す



＊）中計発表時点でのグラフを掲示しております。
なお、一部勘定科目の取り扱いの変更に伴い、'21,22年度の営業利益、利益率につきまして、組み換え前の数値を表示しております。

ありたい姿

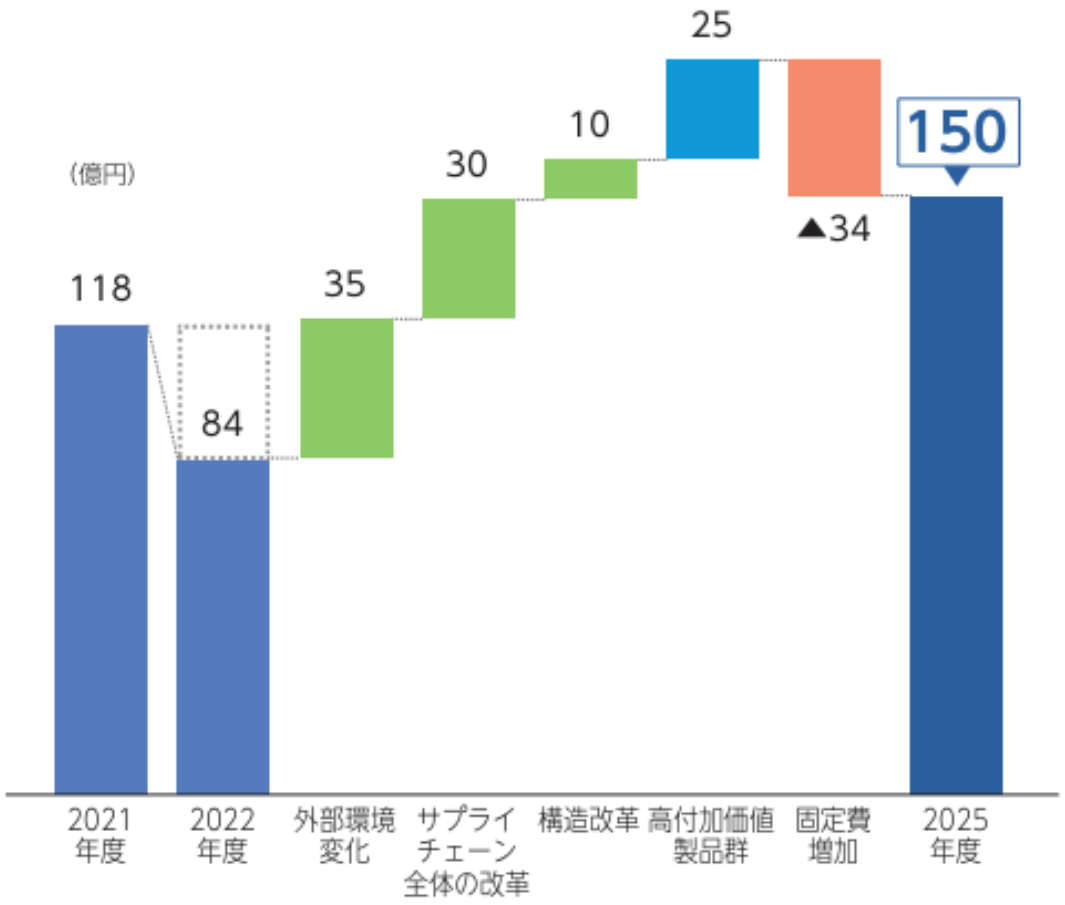
【Vision】
全従業員が誇りを持ち、働きがいを感じる
グローバルでユニークな高収益企業に成長する

【Values】
・すべてのステークホルダーのワクワク
・環境・社会的価値と経済価値をステークホルダーと共創
・社員一人ひとりが価値の創出に貢献

新中計2025で目指す姿

新中計2025(23-25)

■営業利益150億円に向けて

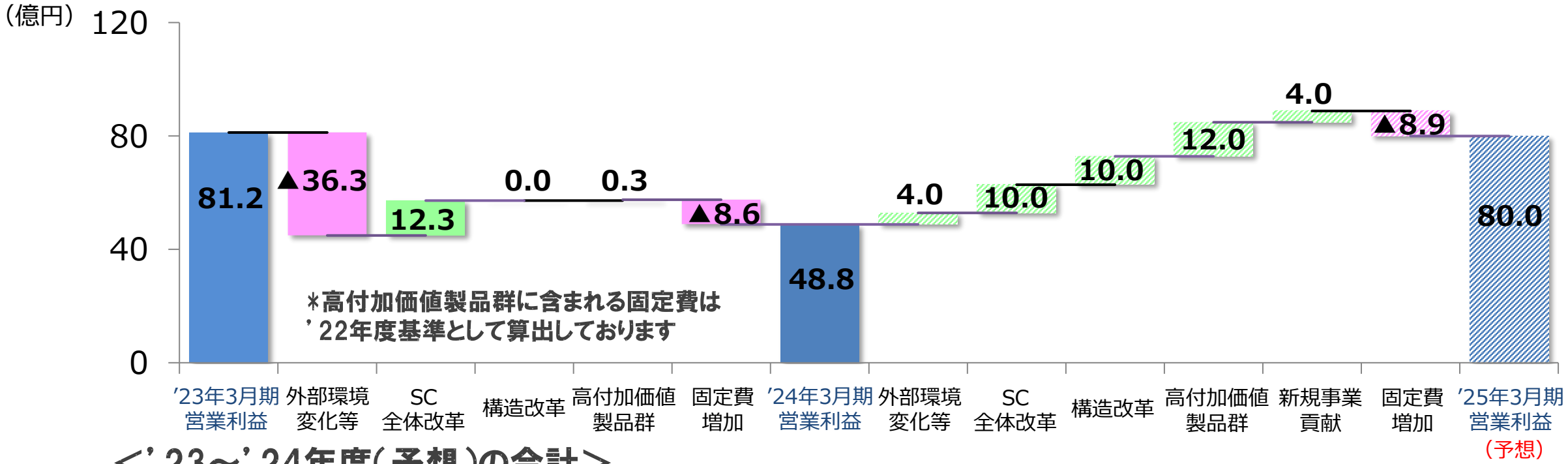


基盤事業の見直し	
外部環境変化	国内自動車生産台数回復、中国ポストコロナ
サプライチェーン全体の改革	ナフサ連動適正価格化 「ものづくり大改革」による効率化と収益改善
構造改革	ウレタン事業と高吸水性樹脂(SAP) 事業は構造改革事業として、大胆な改革を断行

基盤事業からの展開	
高付加価値製品群	注力5製品群への研究開発及び設備能力増強投資を加速し、海外を中心に拡販

固定費増加
ERPシステム更新、リノベーション投資に伴う償却/修繕費増 、人件費増

営業利益150億円に向けて



＜’23～’24年度（予想）の合計＞

	外部環境変化	SC全体改革	構造改革	高付加価値製品群	新規事業貢献	固定費増加
合算値	▲32.3	22.3	10.0	12.3	4.0	▲17.5

～三洋化成の推進アクション～

◇サプライチェーン（SC）全体改革（ものづくり大改革）の推進、構造改革（SAP事業撤退）の断行

◇高付加価値製品群の拡販　◇新規事業の早期利益貢献

外部環境の変化

外部環境の変化	（億円）
中計期間目標（'23~'25）	+35.0
'23（実績）+'24（予想）	▲32.3

国内自動車生産台数

- '23年度上期は、流通在庫が多く荷動きは悪かったものの、下期にかけて次第に解消へ（'24年度は年間を通して改善）

中国ポストコロナ

- 不動産不況に伴う中国経済の低迷
- 中国国内で消費しきれない原料が、アジア・日本マーケットへ流出
- 価格競争が激化

電子部品、半導体市場の低迷

- 事業環境は底打ちしたものの、回復ペースを注視

サプライチェーン全体の改革

SCチェーン全体の改革	（億円）
中計期間目標（'23~'25）	＋30.0
'23（実績）＋'24（予想）	＋22.3

ものづくり革新センター

生産プロセスの抜本的な見直しによる生産効率化・収益力向上

SCM統括本部

全てのサプライチェーンマネジメント（SCM）機能を集約し、業務プロセスの変革、スピーディーな顧客対応で企業価値向上

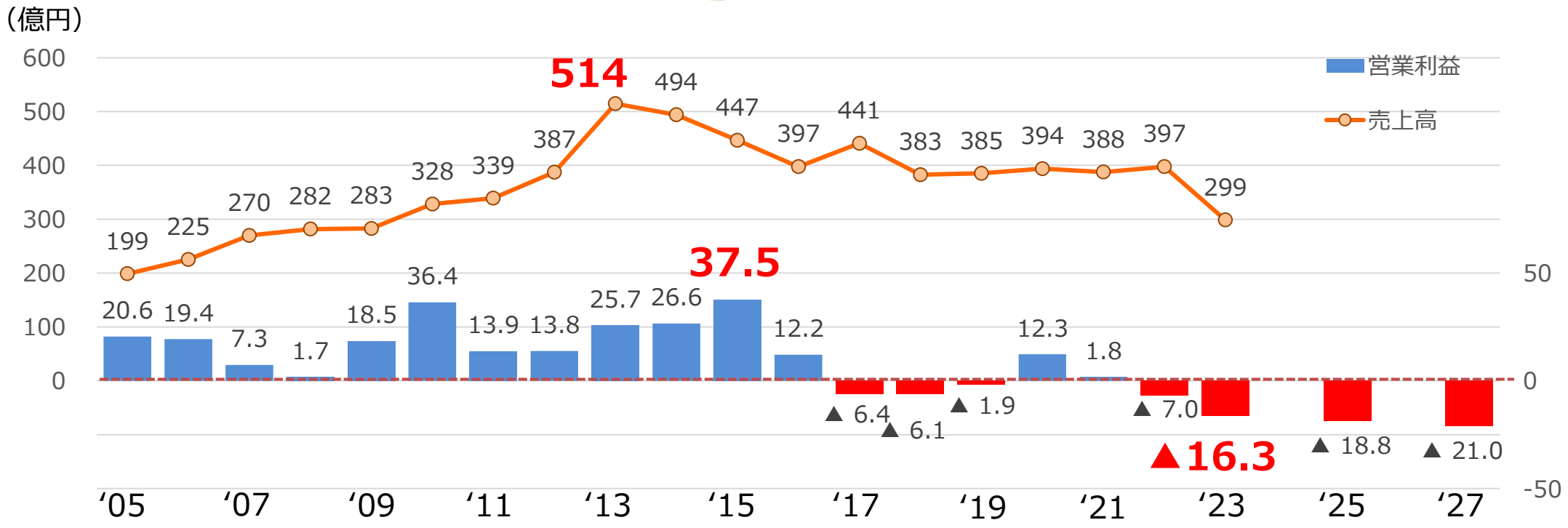
◆取り組み内容例

«原料» 海外原料の輸入推進、原料の複数購買化、容器統合 等
«生産» 工程短縮、収率向上、廃棄物低減、修繕費削減 等
«販売» 商流変更 等

構造改革（SAP,PPG）

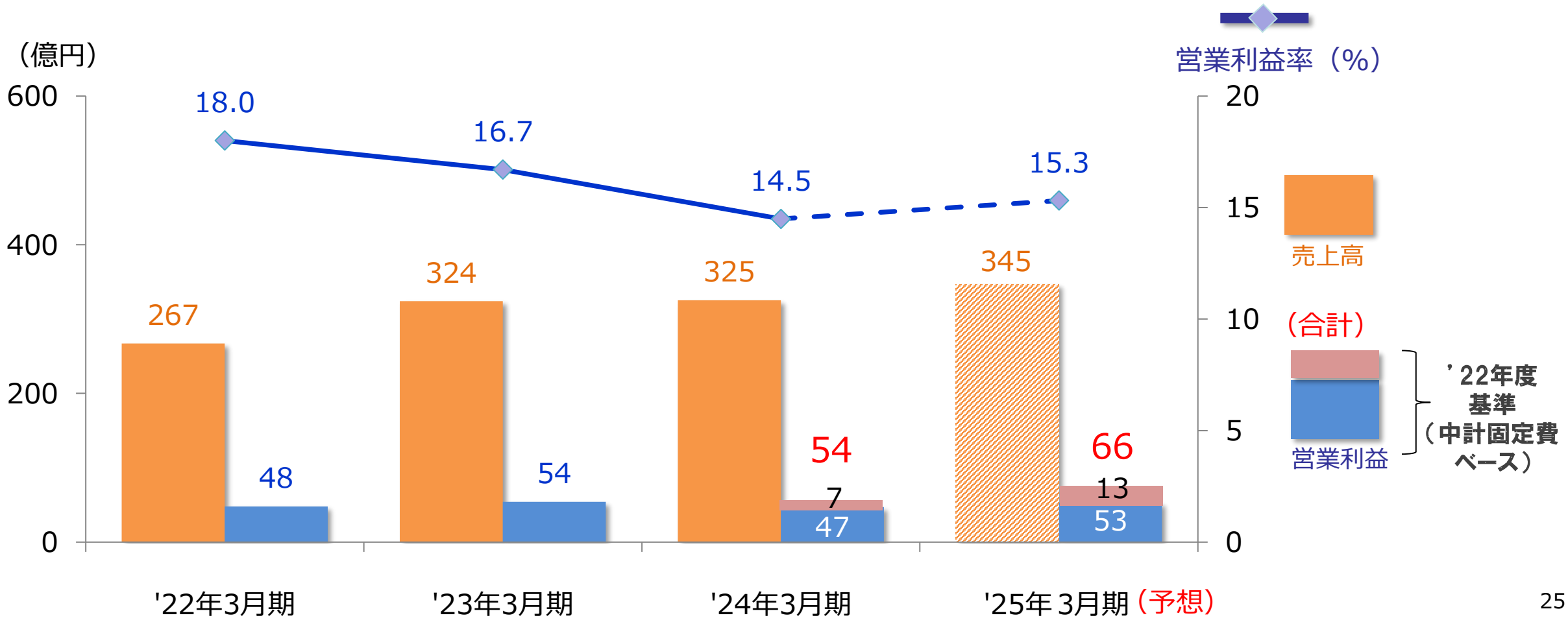
構造改革	（億円）
中計期間目標（'23~'25）	＋10.0
'23（実績）+'24（予想）	＋10.0

- SAP事業撤退
  - **SDP　/' 24年度中の生産停止**
  - **SDPM/生産停止済**
  - **SDN　/売却検討中**
- PPG事業に関するLLPの設立



高付加価値製品群の推移

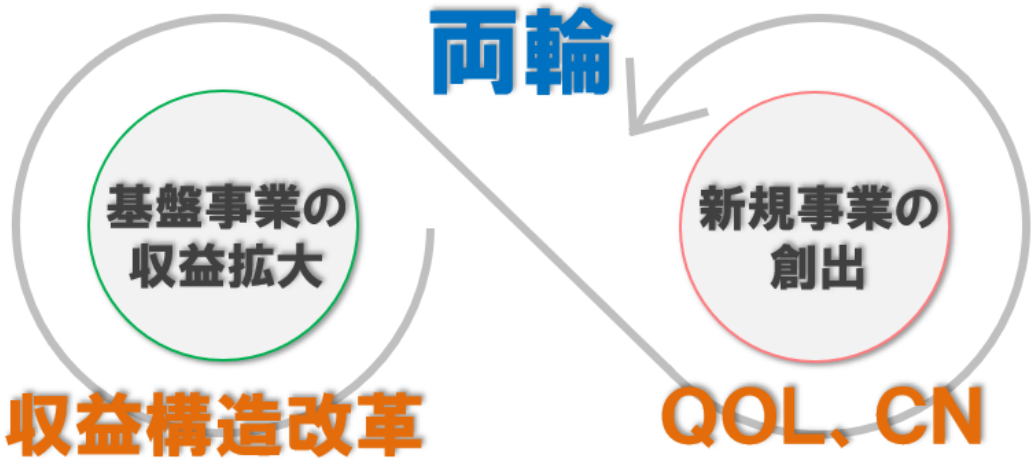
高付加価値製品群	（億円）
中計期間目標（’23~’25）	＋25.0
’23（実績）＋’24（予想）	＋12.3



営業利益150億円に向けて

営業利益150億円の達成は困難ではあるが、
- ◇基盤事業（高付加価値製品群）収益拡大の実現
- ◇構造改革の早期完遂
- ◇事業ポートフォリオ変革の早期実現
- ◇QOL,CNに資する新規事業の柱創出・育成加速

新中計2025への早期キャッチアップとリカバリーアクションの実行を推進



新たな成長軌道（新規事業の状況）

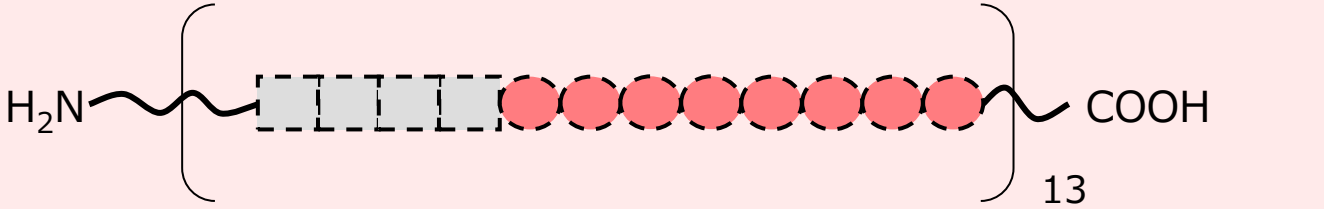
Sanyo Chemical

事業領域		名称等	研究	コンセプト確立	量産化	事業化
カーボンニュートラル（CN）への貢献	カーボンリサイクル	CCU（CO_2有効利用）	イオン液体等を活用したCCU検討中			
	エネルギー	有機正極	有機正極の製造スケールアップ検討中			
	農業	ペプチド資材	植物由来ペプチド(初製品)の肥料登録完了			
生活の（QOL）の向上	診断・再生医療	エクソソーム精製技術『EXORPTION®』	細胞外小胞(EV)研究支援キット販売開始			
	体外診断用医薬品	アキュラシード	富士フイルム三洋化成ヘルスケアへの生産集約による効率化			
	創傷治癒材料・半月板修復	シルクエラスチン	創傷治癒材料の薬事承認申請済み 半月板再生材の企業治験準備開始			
	デジタル嗅覚	匂いセンサー『FravoTone』	匂いセンサー卓上機、小型機の販売・レンタル開始			

シルクエラスチンとは（１）

機能性タンパク質『シルクエラスチン®』

◇遺伝子組み換え技術により作製された人工たんぱく質
日本初、世界でも数少ない遺伝子組み換えタンパク質を利用した医療機器へ



シルクフィブロイン配列
（アミノ酸配列：ＧＡＧＡＧＳ）

エラスチン配列
（アミノ酸配列：ＧＶＧＶＰ）

シルクエラスチンの構造

シルクフィブロイン

保湿性や静菌性を有した
安全性の高い医療用材料

エラスチン

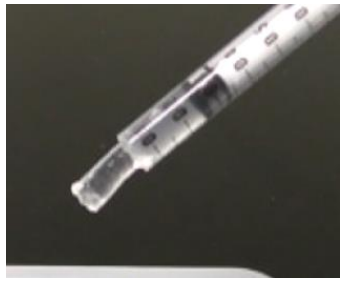
皮膚の弾性を発現させる
真皮の構成成分のひとつ

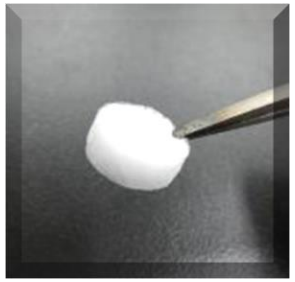
シルクエラスチンとは（２）

Sanyo Chemical

特長 1

感温ゲル化性
材料加工性



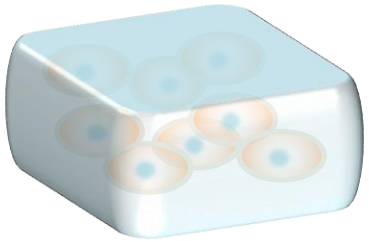


特長 2

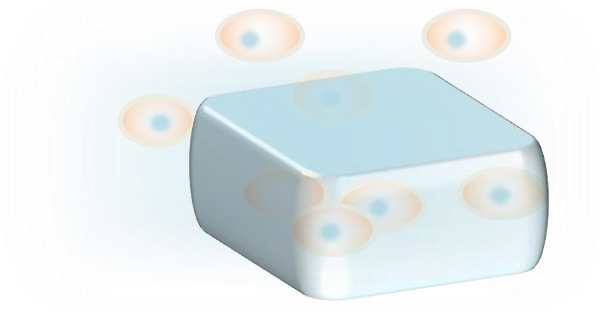
Cell Booster

（１）細胞遊走能の活性化
（２）コラーゲン産生増強

高い細胞親和性



細胞移植



細胞遊走

特長 3

非動物由来

（１）細菌の餌にならない
（２）ウイルス感染のリスクが極めて低い

シルクエラスチン　開発の経緯

Sanyo Chemical

2009年に技術導入し、大腸菌生産菌株ならびに培養・精製の処方を得て、開発検討を開始

2009　'10　'13　'14　'16　'17　'18　'19　'20　'22　'24　'25

技術導入		●バイオベンチャーより技術導入
共同研究		●京都大学形成外科学講座 褥瘡（創傷）用途での共同研究開始 ●広島大学整形外科学講座 半月板再生用途での共同研究開始
助成金関係	（創傷）	●JST ASTEP ●AMED ●AMED ●AMED医工連携
	（半月板）	●AMED ●AMED
事業化フェーズ	（創傷）	医師主導治験 企業治験 薬事承認取得上市予定
	（半月板）	医師主導治験 企業治験予定

創傷治癒用途における市場性

共同研究パートナー：京都大学大学院医学研究科形成外科

慢性創傷（糖尿病性足潰瘍等）や急性創傷（熱傷等）は、日本国内で120,000例以上であり、高齢化に伴い、難治化を含めて増加傾向

日本の糖尿病患者数　：316万6,000人
糖尿病下腿潰瘍の有病率　：　1.5～10%（発生率　：　2.2～5.9%）

重症化（足切断）患者　：１万人/年

（日本糖尿病学会ガイドライン2017）
京都大学附属病院･･･糖尿病患者数　：1万2735人/年
(2015年 京都大学医療情報部調べ)

	シルクエラスチン	従来法①	従来法②
急性創傷	**100**%	60%	32%
慢性創傷	**90**%	34%	–

従来治療では治癒が期待できなかった傷に対して、高い治癒効果が得られた

医師主導治験・企業治験での極めて良好な結果（治癒力・治療期間短縮）

創傷治癒力とハンドリング性の良さから競合と位置付ける医療機器（人工真皮、NPWT*）の置き換えを狙う

シルクエラスチン貼付前

シルクエラスチン貼付14日後

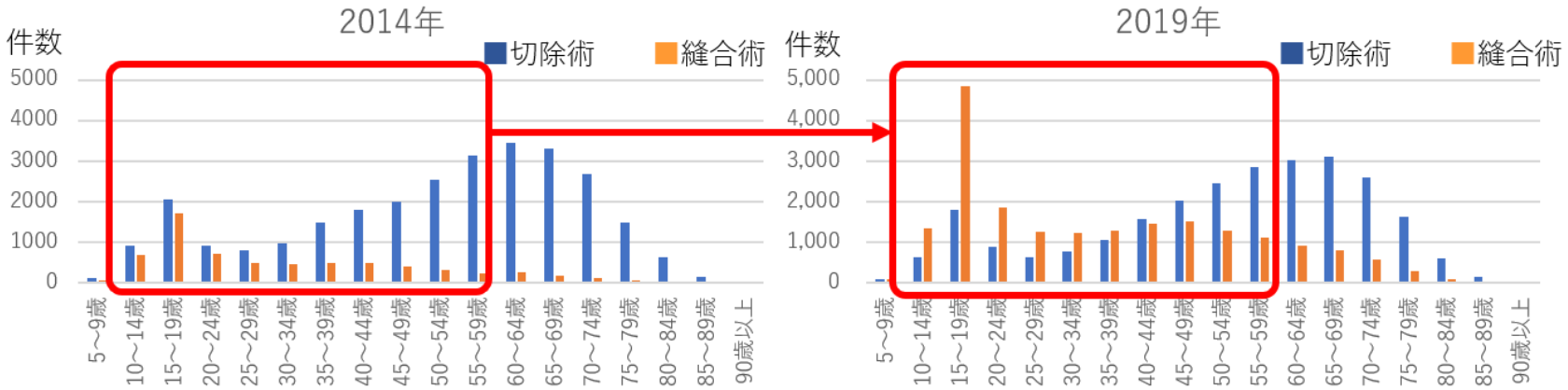
*局所陰圧閉鎖療法

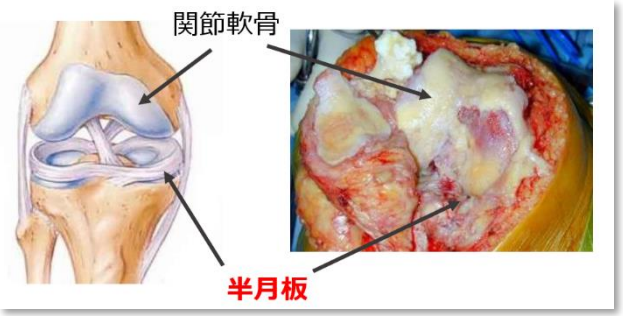
2024年薬事承認申請・保険償還申請を経て、2025年度内の上市を目指す

半月板再生材用途における市場性

共同研究パートナー：広島大学大学院医系科学研究科整形外科

半月板損傷における治療法では、半月板機能温存のため『縫合術』の実施件数が増加。しかしながら、実施患者の30%前後は癒合不十分で、再断裂を起こすことが課題





＜市場規模＞

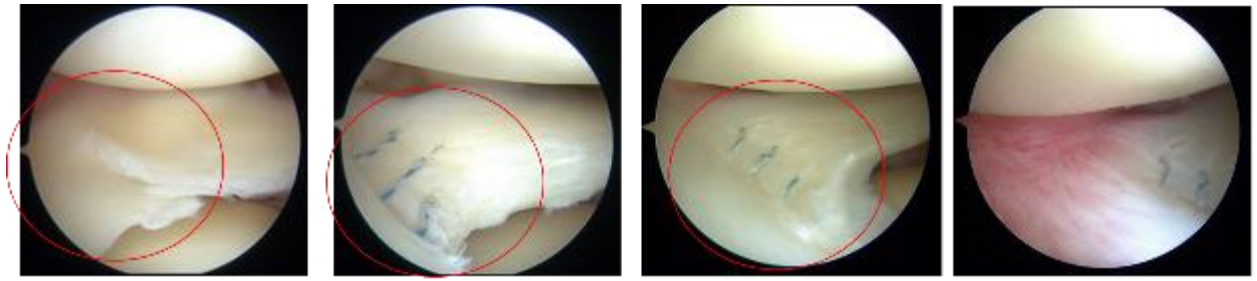
縫合術症例数（国内＋海外）は300万件程度であり、市場規模は１,000億円以上

◇患者数は日本よりも海外が多い
◇米国が世界市場の半数以上を占める

医師主導治験結果

＜医師主導治験結果＞

半月板損傷と判断された患者8例に対して、術後3ヵ月後の検査にて断裂部位の完全癒合を半数以上確認



縫合前　縫合後　術後3ヵ月（完全癒合）

被験者番号	年齢	性別	関節鏡検査結果（術後3カ月）	被験者番号	年齢	性別	関節鏡検査結果（術後3カ月）
001	20歳	女性	完全癒合（100%）	006	17歳	男性	不完全癒合（80%）
002	27歳	男性	完全癒合（100%）	007	47歳	女性	完全癒合（100%）
003	38歳	男性	完全癒合（100%）	008	52歳	男性	完全癒合（100%）
004	17歳	男性	不完全癒合（80%）	009	21歳	男性	完全癒合（100%）

治験責任医師（広島大学病院長／整形外科学 安達伸生教授コメント）

- **驚異的な結果でありシルクエラスチンの効果が十分に確認できた**
- **安全性に関しても、サンプル不具合や特段の有害事象は認められず安心して使用できた**

シルクエラスチンの将来性

Sanyo Chemical

Strong point

- 優れた治癒能力と治癒期間の短縮（医師・患者負担軽減）
- 非動物由来の遺伝子組み換え人工たんぱく質であり、材料由来の感染リスクが極めて低い

Potential

- 用途適用性の幅が広く、その他の再生材などでも基礎研究を推進（筋肉再生材（非臨床）など、10以上のテーマを推進）

＜想定するビジネスモデル＞

三洋化成 Sanyo Chemical × パートナー

製造販売業承継

◇2025年度創傷治癒用途で実績化を目指し、施術実績の積み上げ

◇市場規模の大きい半月板再生材用途での企業治験を2025年度中に実施

2030年、当社事業の柱に育成

Sanyo Chemical

参考資料

産業分野別主要製品

大分類	中分類	主要製品
生活・健康産業関連	生活産業関連	洗剤・洗浄剤用界面活性剤、ヘアケア製品用界面活性剤、製紙用薬剤
	健康産業関連	高吸水性樹脂（SAP）*、医薬品原料、殺菌消毒剤、外科用止血材、EIA（酵素免疫測定法）用臨床検査薬、人工腎臓用ポッティング材
石油・輸送機産業関連		自動車内装表皮材用ウレタンビーズ（TUB）、ポリウレタンフォーム用原料（PPG）、潤滑油添加剤、燃料油添加剤、水溶性切削油、非ハロゲン系洗浄剤、合成潤滑油ベース、デザインモデル製作用盛り付け樹脂、自動車塗料用樹脂
プラスチック・繊維産業関連	プラスチック産業関連	永久帯電防止剤、顔料分散剤、樹脂改質剤、塗料用樹脂、消泡剤、ポリウレタンエラストマー原料、モデル製作用合成木材
	繊維産業関連	繊維製造用薬剤、炭素繊維用薬剤、ガラス繊維用薬剤、人工皮革・合成皮革用ウレタン樹脂
情報・電気電子産業関連	情報産業関連	重合トナー中間体ポリエステルビーズ（PEB）、トナーバインダー
	電気電子産業関連	アルミ電解コンデンサ用電解液、電子材料用粘着剤、電子部品製造工程用薬剤、UV・EB硬化樹脂
環境・住設産業関連他		廃水処理用高分子凝集剤、カチオンモノマー、家具・断熱材用PPG、泥水用薬剤、反応性ホットメルト接着剤、建築シーラント用原料、セメント用薬剤

*2024/3/25 SAP事業からの撤退を決議しております

会社概要

創　　立：1949（昭和24）年11月1日

本　　社：京都市東山区

資 本 金：13,051百万円

国内支社・営業所：東京、名古屋、広島、福岡

国内工場：名古屋、衣浦、鹿島、京都、川崎（サンケミカル）

従業員数：2,042名（連結）[2024年3月31日現在]

事業内容：約3,000種のパフォーマンス・ケミカルス（機能化学品）の製造・販売

三洋化成グループ

三洋化成グループ

●連結子会社 ○持分法適用会社

国内

●SDPグローバル（株）*1 ●サンアプロ（株） ○（株）サン・ペトロケミカル
●サンノプコ（株） ●サンケミカル（株）

海外

●三洋化成精細化学品（南通）有限公司*1
●三大雅精細化学品（南通）有限公司 *1 ●三洋化成（上海）貿易有限公司
●韓国三洋化成（株）
●Sanyo Kasei (Thailand) Ltd.
●Sanyo Chemical America Incorporated
●Sanyo Chemical Texas Industries, LLC ○Sunrise Chemical LLC
●SDP GLOBAL (MALAYSIA) SDN.BHD.*1

物流・サービス

●三洋化成ロジスティクス（株） ○塩浜ケミカル倉庫（株）

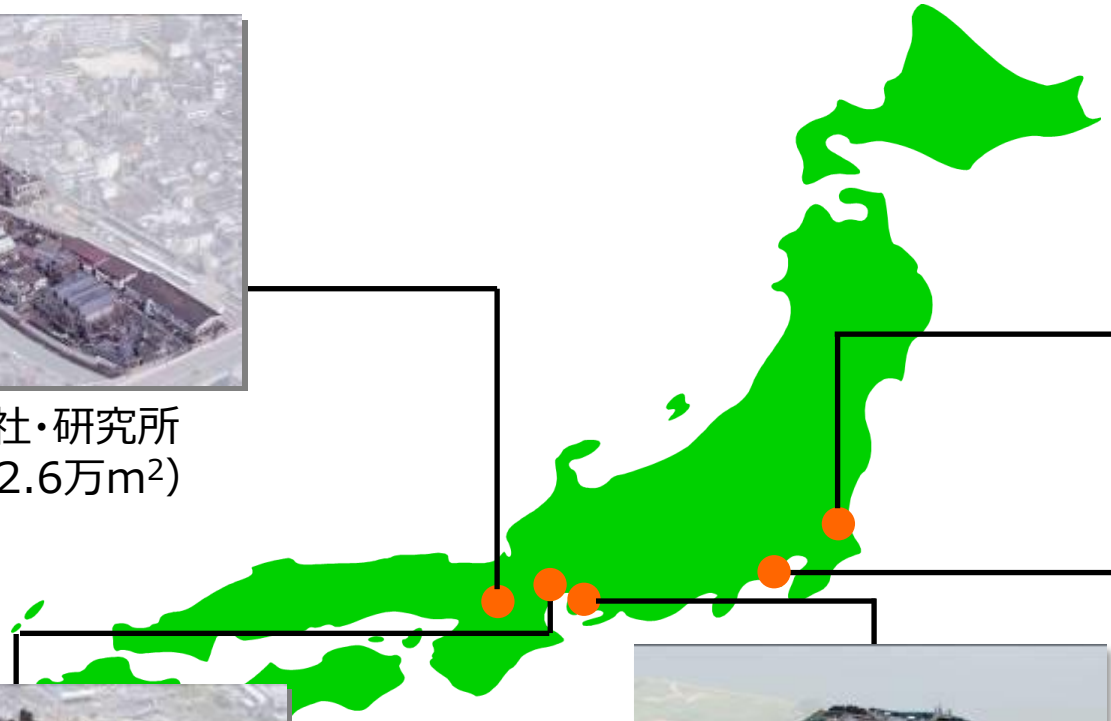
その他の子会社・関連会社：

台湾三洋化成股份有限公司 韓国三洋化成製造（株） San Nopco (Korea) Limited
San Nopco (Shanghai) Trading Co., Ltd. DaXiang International Trading (Shanghai) Co., Ltd.

注：*1）高吸水性樹脂事業及び中国江蘇省南通市における生産事業からの撤退を決議しております。
本事業撤退に伴う解散、異動（持分譲渡）の詳細につきましては、3/25公表の適時開示資料をご覧ください。

国内生産拠点

京都工場・本社・研究所
（東山区、約2.6万m²）



鹿島工場
（茨城県神栖市、約13.0万m²）

名古屋工場
（愛知県東海市、約10.0万m²）

衣浦工場
（愛知県半田市、約14.0万m²）

サンケミカル　川崎工場
（神奈川県川崎市、約1.1万m²）

海外生産拠点

三洋化成精細化学品（南通）有限公司*1

三大雅精細化学品（南通）有限公司*1

韓国三洋化成製造株式会社

Sanyo Kasei (Thailand) Ltd.

SDP GLOBAL(MALAYSIA)SDN.BHD.*1

Sanyo Chemical Texas Industries, LLC

注：*1）高吸水性樹脂事業及び中国江蘇省南通市における生産事業からの撤退を決議しております。
本事業撤退に伴う解散、異動（持分譲渡）の詳細につきましては、3/25公表の適時開示資料をご覧ください。

海外営業拠点

三洋化成(上海)貿易有限公司
San Nopco (Shanghai) Trading Co., Ltd.
DaXiang International Trading (Shanghai) Co., Ltd.

韓国三洋化成株式会社
San Nopco (Korea) Limited

Sanyo Chemical America Inc.

台湾三洋化成股份有限公司

Sanyo Kasei (Thailand) Ltd.

国内連結子会社

会社名	略号	議決権所有割合	事業内容
SDPグローバル㈱ ＊1	SDP	三洋化成工業㈱ 100%	高吸水性樹脂の製造販売
サンノプコ㈱	SNL	三洋化成工業㈱ 100%	紙・パルプ薬剤、塗料用薬剤、 各種工業用薬剤等の製造販売
サンケミカル㈱	SCC	三洋化成工業㈱ 50% ENEOS㈱ 50%	ポリウレタンフォーム用原料等の製造
サンアプロ㈱	SA	三洋化成工業㈱ 50% ｴﾎﾞﾆｯｸ・ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ ﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞ B.V. 50%	エポキシ樹脂硬化促進剤、 ウレタン化反応触媒等の製造販売
三洋化成ロジスティクス㈱	三洋ロジ	三洋化成工業㈱ 100%	運送業・倉庫業

注：＊1）高吸水性樹脂事業及び中国江蘇省南通市における生産事業からの撤退を決議しております。
本事業撤退に伴う解散、異動（持分譲渡）の詳細につきましては、3/25公表の適時開示資料をご覧ください。

海外連結子会社

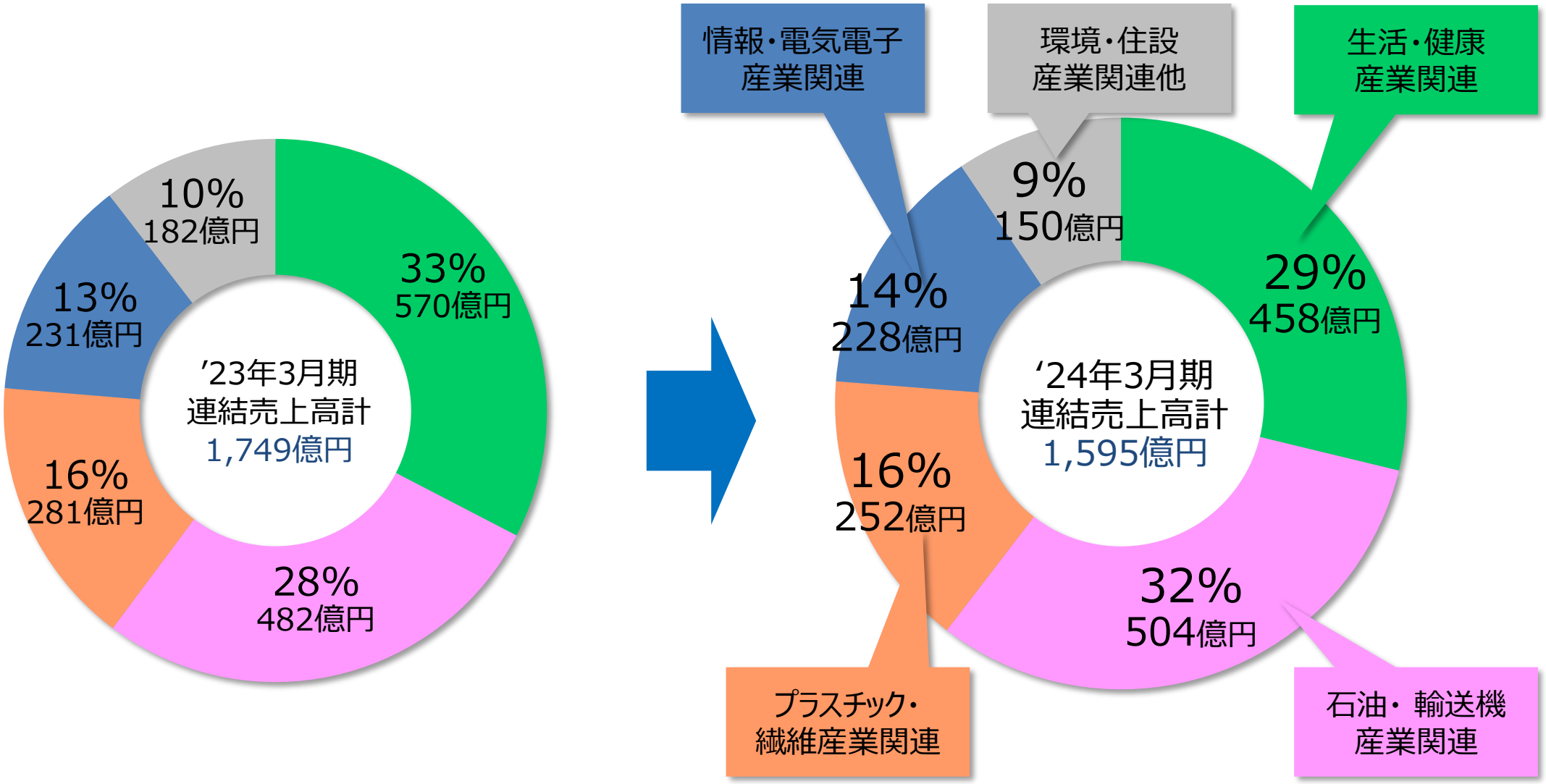
会社名	所在国	略号	議決権所有割合		事業内容
三洋化成精細化学品（南通）有限公司*1	中国	SKN	三洋化成工業㈱	100%	界面活性剤、ウレタン樹脂等の製造
三大雅精細化学品（南通）有限公司*1	中国	SDN	SDPグローバル㈱	100%	高吸水性樹脂の製造販売
三洋化成（上海）貿易有限公司	中国	SCST	三洋化成工業㈱	100%	界面活性剤、ウレタン樹脂等の販売
Sanyo Kasei (Thailand) Ltd.	タイ	SKT	三洋化成工業㈱ VIV,豊田通商㈱ほか	79% 21%	界面活性剤、ウレタン樹脂等の製造販売
Sanyo Chemical America Incorporated	米国	SCA	三洋化成工業㈱	100%	米国子会社の統括会社、潤滑油添加剤、ウレタンビーズ等の販売
Sanyo Chemical Texas Industries, LLC	米国	SCTI	Sanyo Chemical America Incorporated	100%	ウレタンビーズの製造
SDP GLOBAL (MALAYSIA) SDN.BHD.*1	マレーシア	SDPM	SDPグローバル㈱	100%	高吸水性樹脂の製造販売
韓国三洋化成株式会社	韓国	SKK	三洋化成工業㈱	100%	潤滑油添加剤、界面活性剤等の販売

注：*1）高吸水性樹脂事業及び中国江蘇省南通市における生産事業からの撤退を決議しております。
本事業撤退に伴う解散、異動（持分譲渡）の詳細につきましては、3/25公表の適時開示資料をご覧ください。

持分法適用会社

会社名	略号	議決権所有割合	事業内容
㈱サン・ペトロケミカル	SPCC	三洋化成工業㈱ 50% ENEOS㈱ 50%	合成ゴム原料の製造
Sunrise Chemical LLC ［米国］	SRC	Sanyo Chemical America Incorporated 50% ﾆｯﾎﾟﾝ･ｹﾐｶﾙ･ﾃｷｻｽ 50%	合成ゴム原料の製造
塩浜ケミカル倉庫㈱	塩ケミ	三洋化成工業㈱ 50% ENEOS㈱ 50%	倉庫業

連結産業分野別売上高構成



高付加価値製品群、基盤製品群

（億円,%）

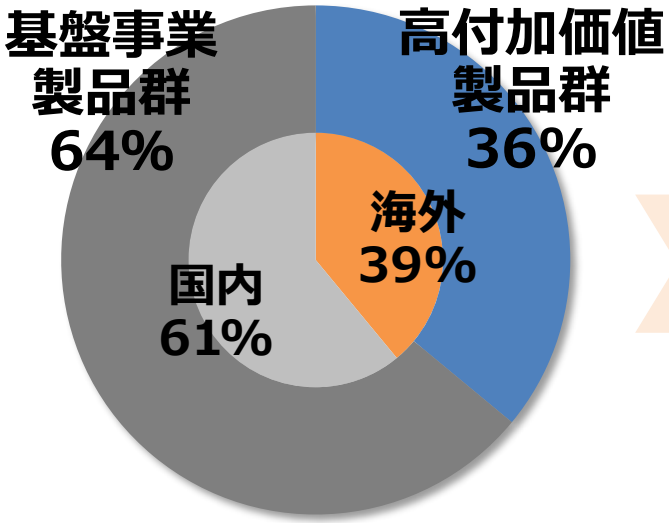
高付加価値製品群	2023年3月期	2024年3月期	前期比	
			増減額	増減率
売上高	324	325	1	0
営業利益	54	47	▲7	▲13

（億円,%）

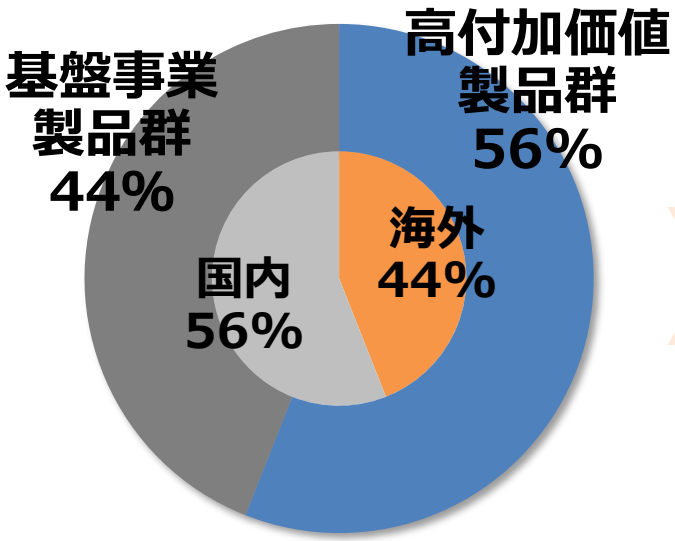
基盤製品群	2023年3月期	2024年3月期	前期比	
			増減額	増減率
売上高	1,425	1,269	▲155	▲11
営業利益	45	14	▲30	▲68

海外営業利益構成比率

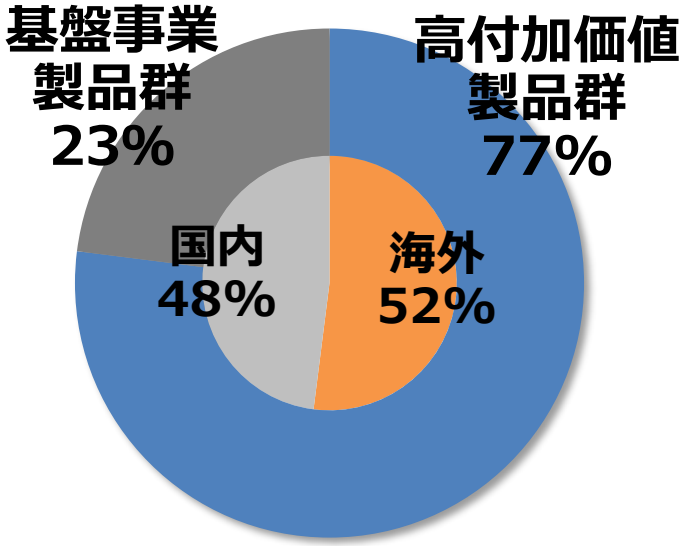
2021年度営業利益
118.6億円



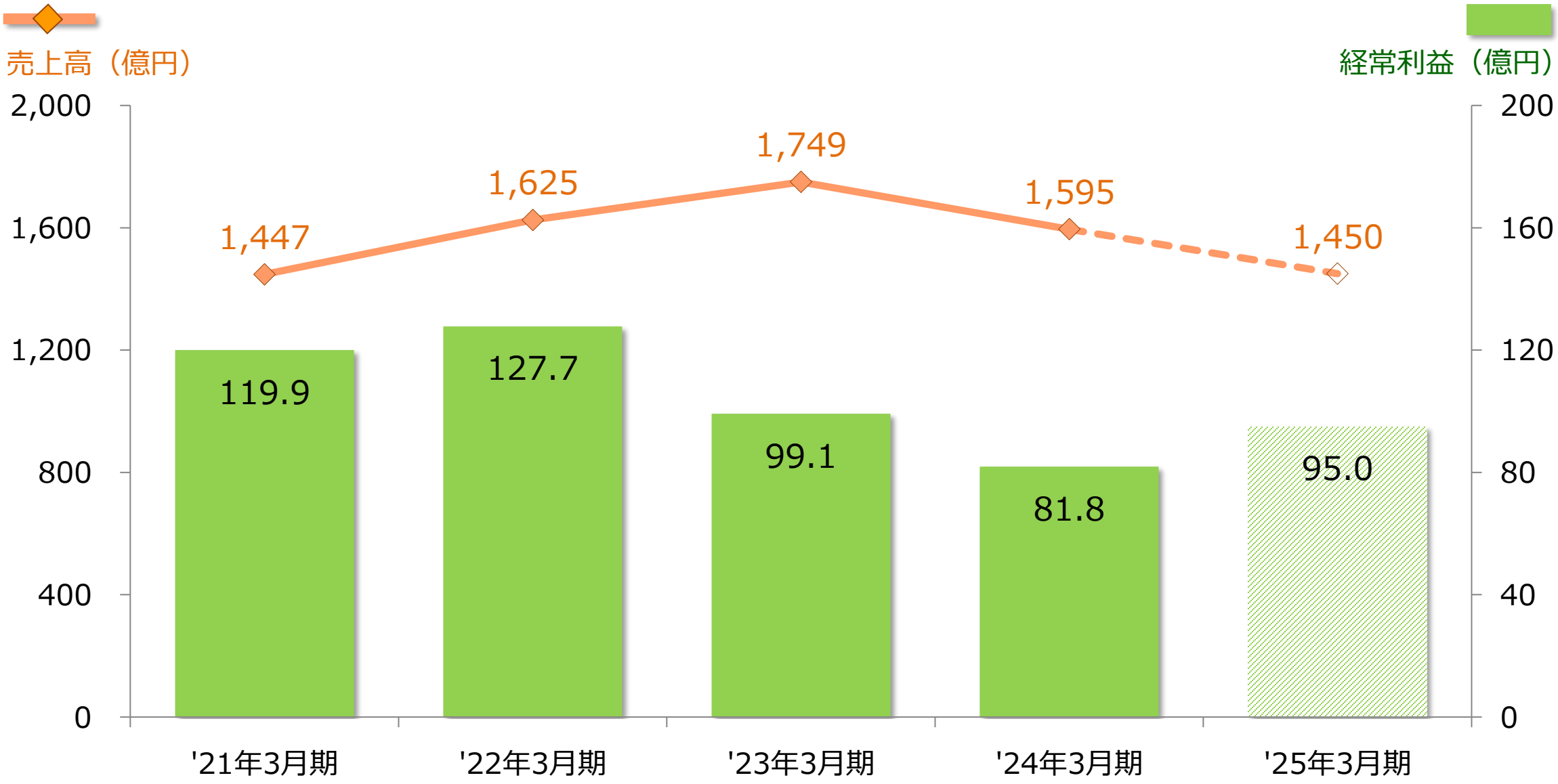
2022年度営業利益
81.2億円



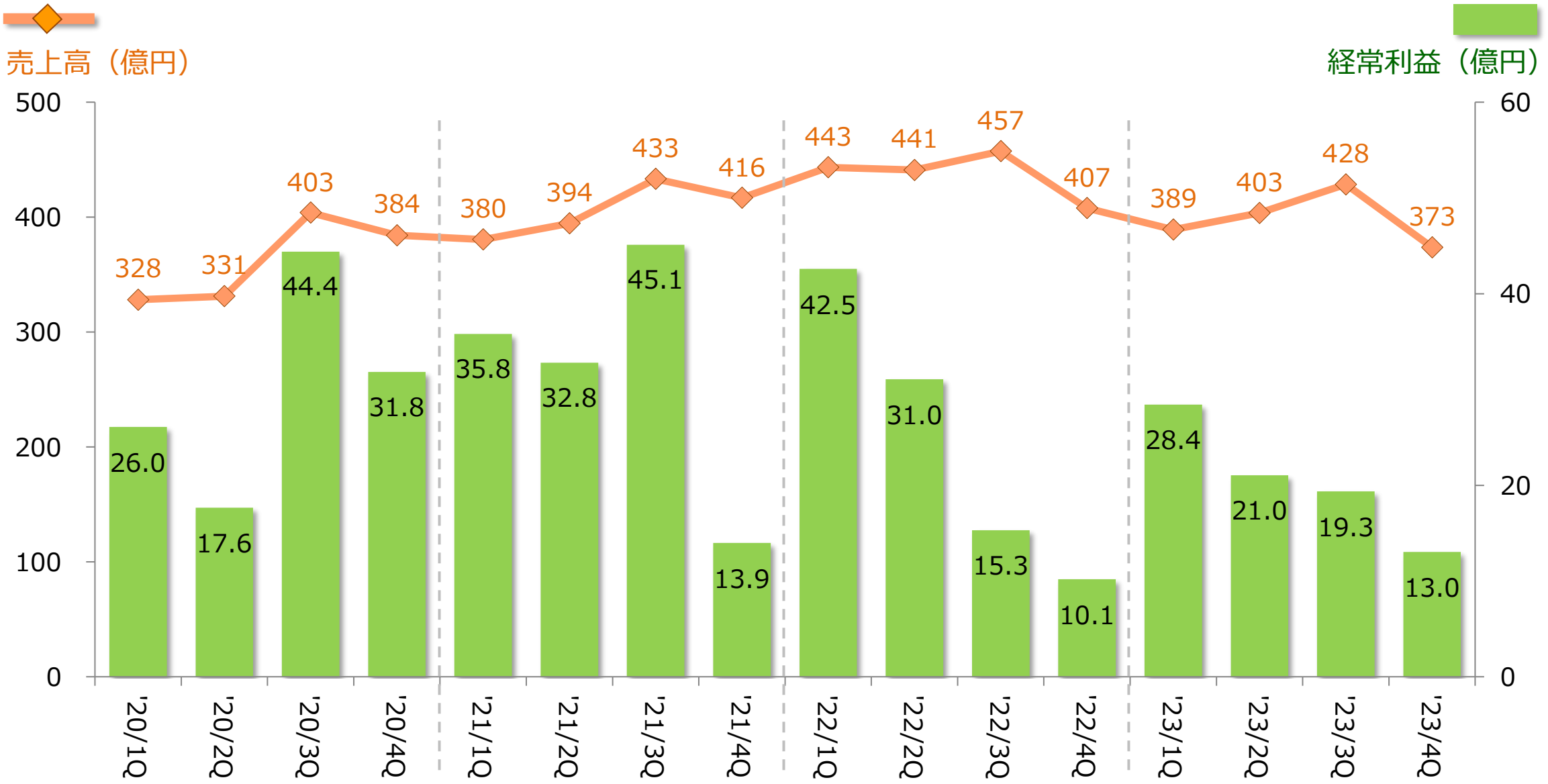
2023年度営業利益
48.8億円



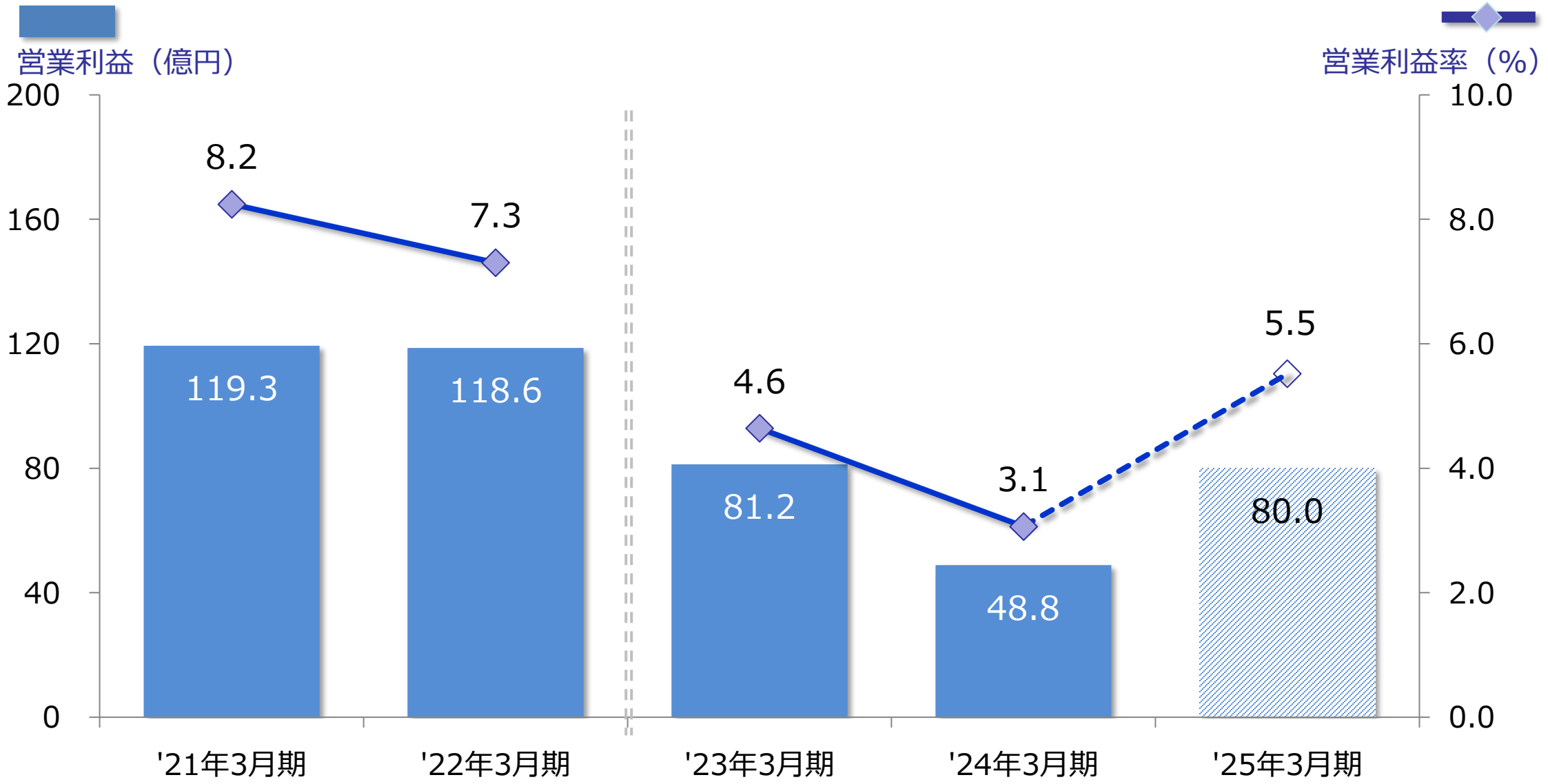
連結業績の推移


売上高（億円）
経常利益（億円）
2,000
1,600
1,200
800
400
0
200
160
120
80
40
0
1,447
1,625
1,749
1,595
1,450
119.9
127.7
99.1
81.8
95.0
'21年3月期
'22年3月期
'23年3月期
'24年3月期
'25年3月期

連結業績の推移（四半期）

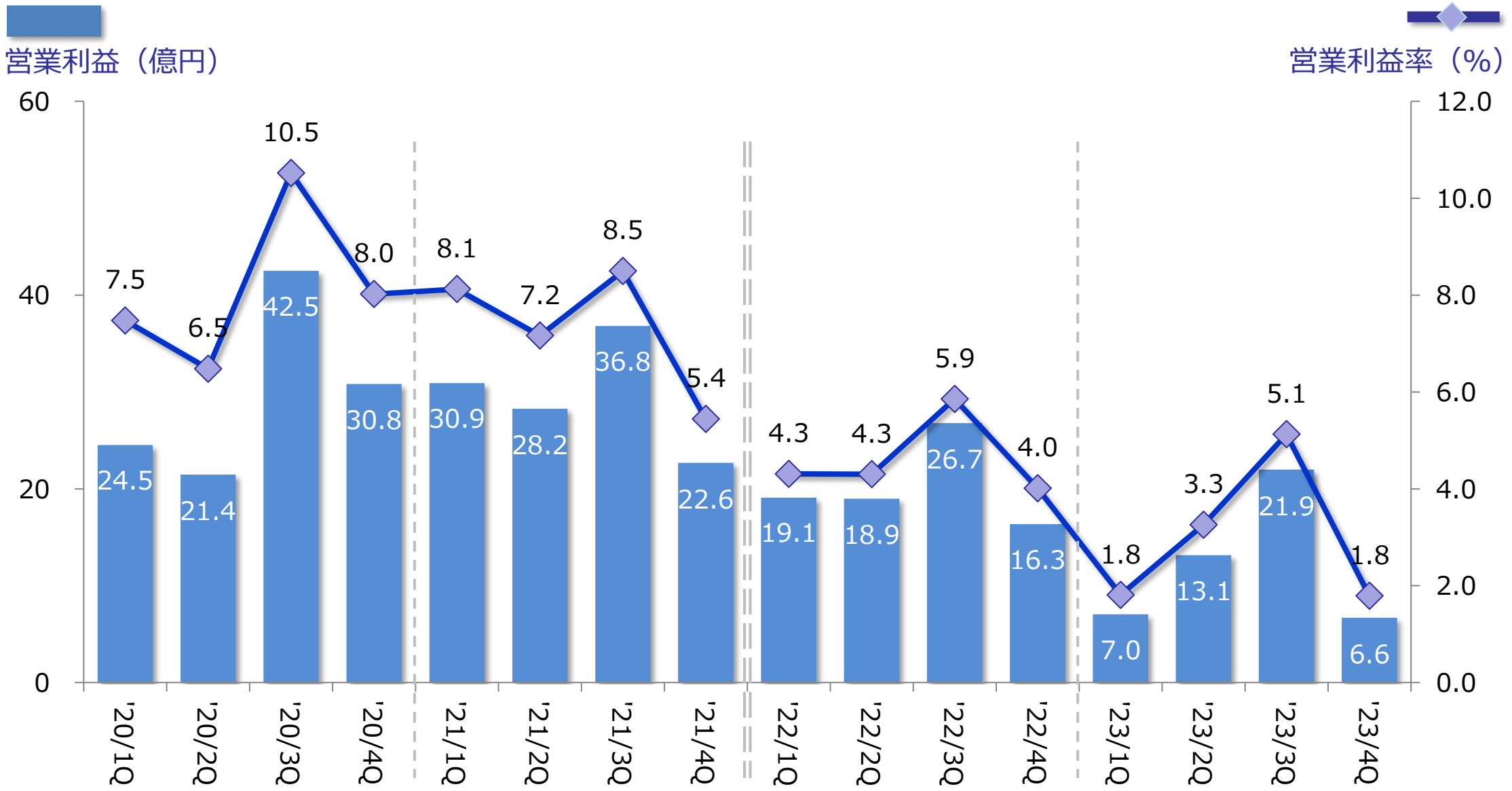

売上高（億円）
経常利益（億円）
500
400
300
200
100
0
60
40
20
0
328
331
403
384
380
394
433
416
443
441
457
407
389
403
428
373
26.0
17.6
44.4
31.8
35.8
32.8
45.1
13.9
42.5
31.0
15.3
10.1
28.4
21.0
19.3
13.0
'20/1Q
'20/2Q
'20/3Q
'20/4Q
'21/1Q
'21/2Q
'21/3Q
'21/4Q
'22/1Q
'22/2Q
'22/3Q
'22/4Q
'23/1Q
'23/2Q
'23/3Q
'23/4Q

連結営業利益（同率）の推移



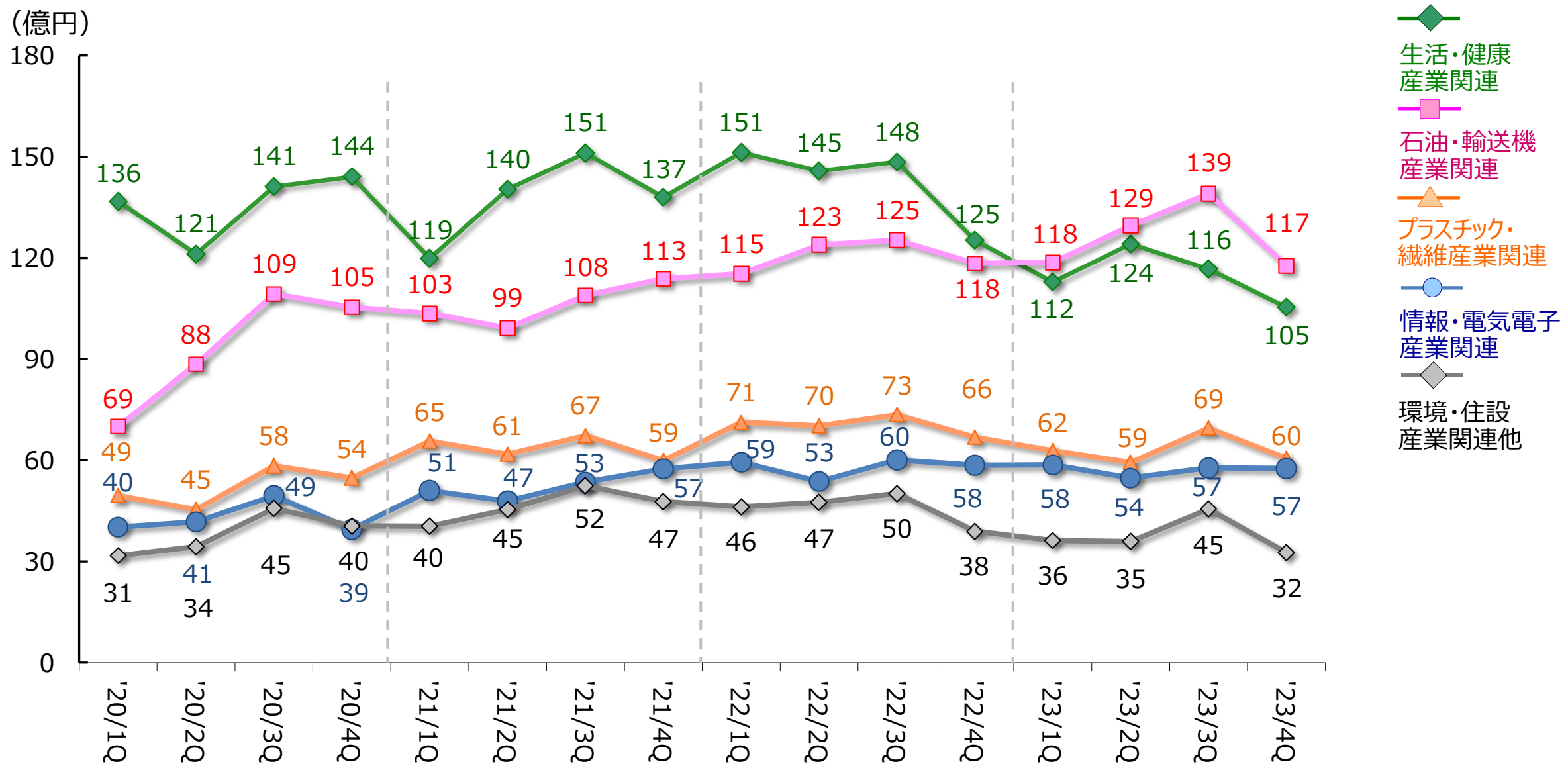
＊一部勘定科目の取り扱いの変更を受け、'22年3月期以前は組み換え前、'23年3月期以降は組み換え後の数値を表示しております。

連結営業利益（同率）の推移（四半期）

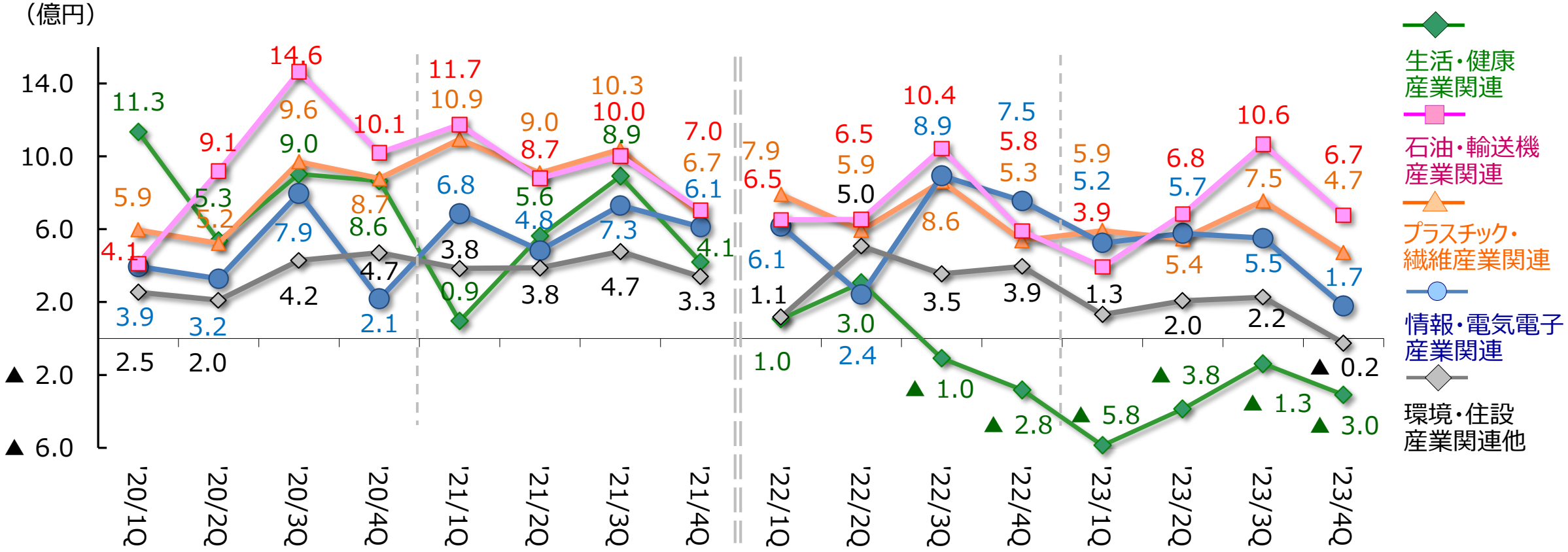


＊一部勘定科目の取り扱いの変更を受け、'21/4Q以前は組み換え前、'22/1Q以降は組み換え後の数値を表示しております。

連結産業分野別売上高の推移（四半期）



連結産業分野別営業利益の推移（四半期）

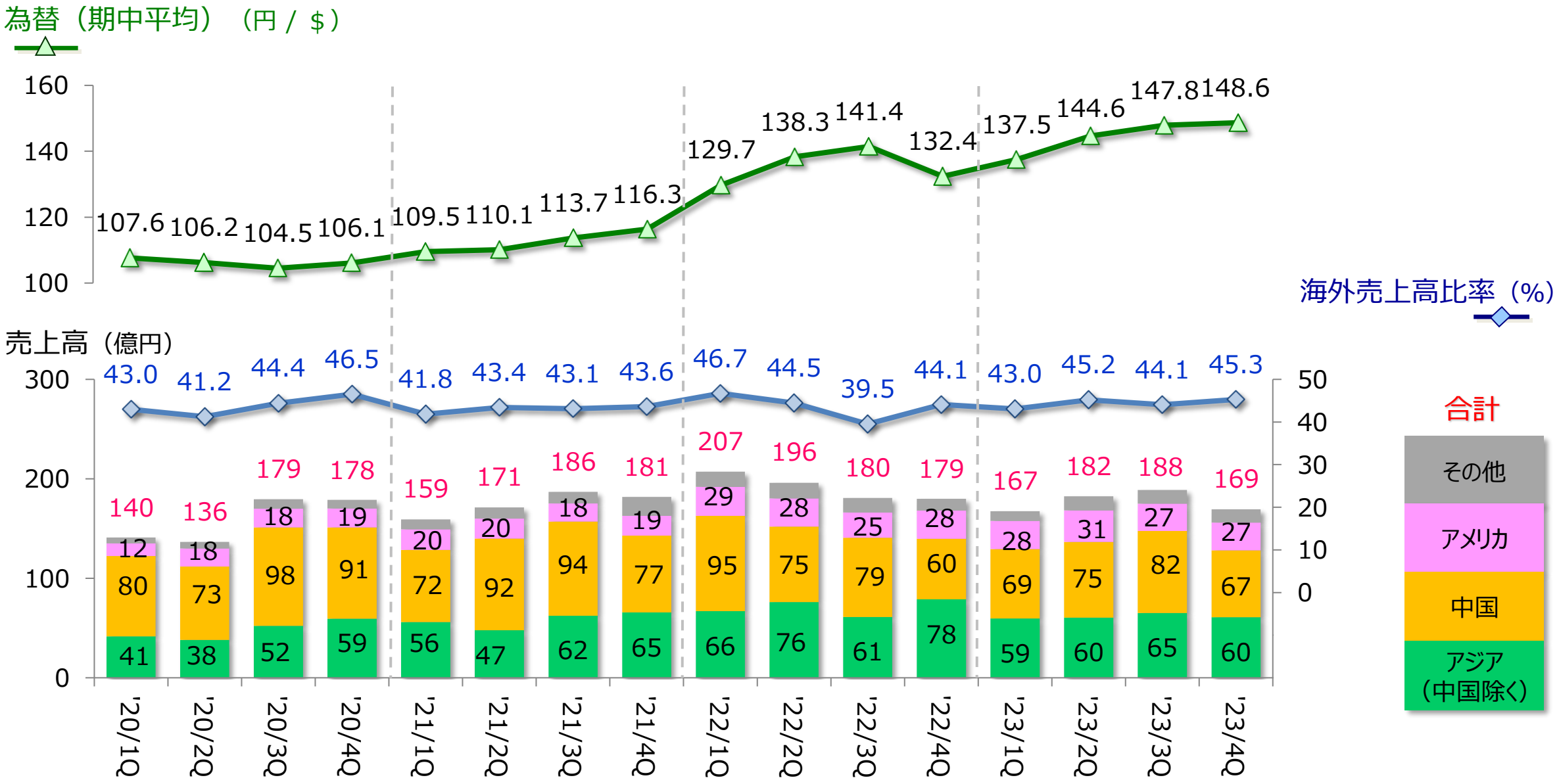


＊一部勘定科目の取り扱いの変更を受け、'21/4Q以前は組み換え前、'22/1Q以降は組み換え後の数値を表示しております。

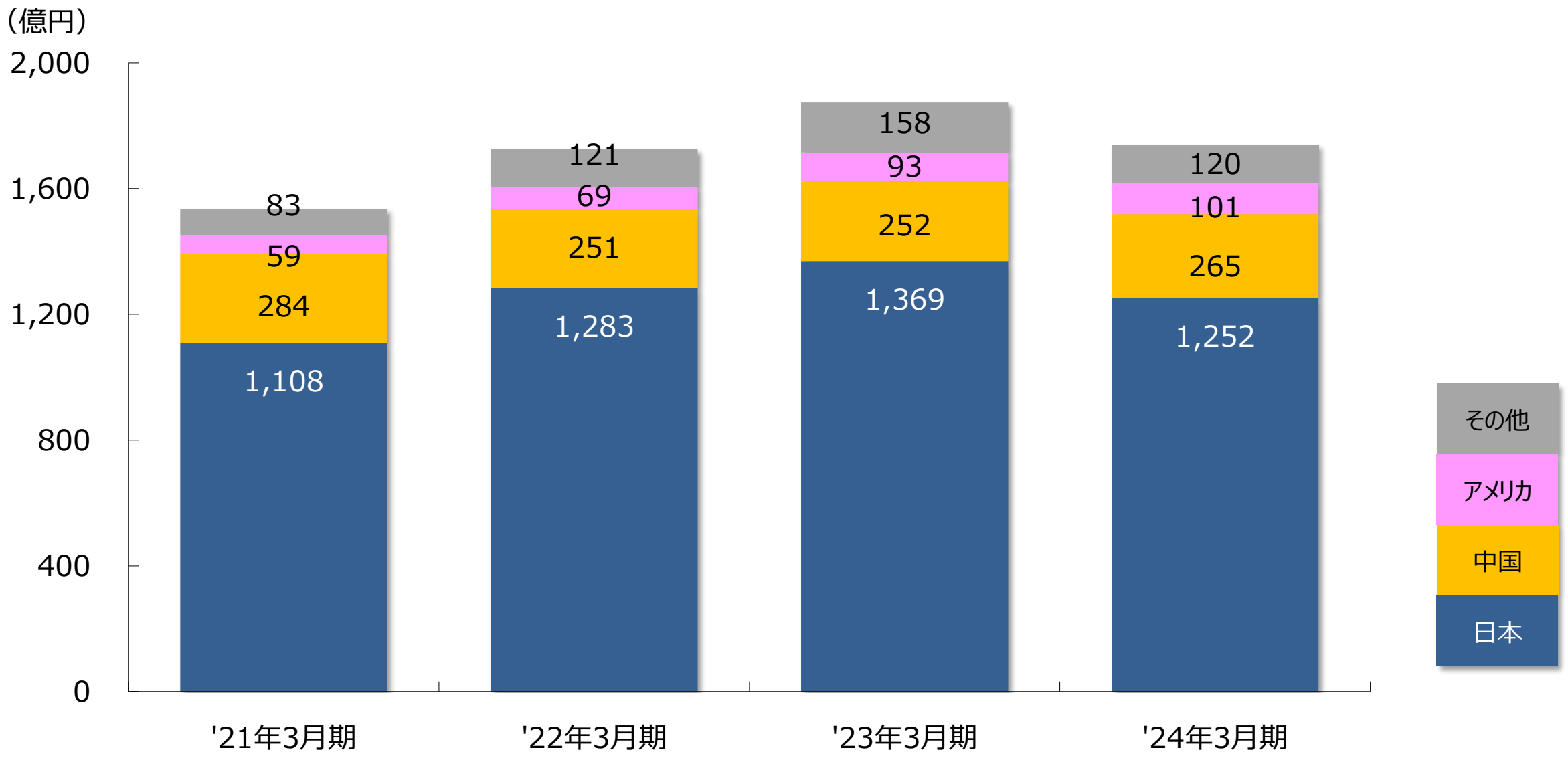
新規事業に係る研究開発費（億円）

'21年3月期				'22年3月期				'23年3月期				'24年3月期			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
▲3.3	▲3.6	▲3.1	▲3.6	▲3.4	▲3.9	▲4.5	▲4.7	▲3.7	▲4.0	▲3.6	▲3.5	▲3.4	▲3.1	▲2.6	▲3.2

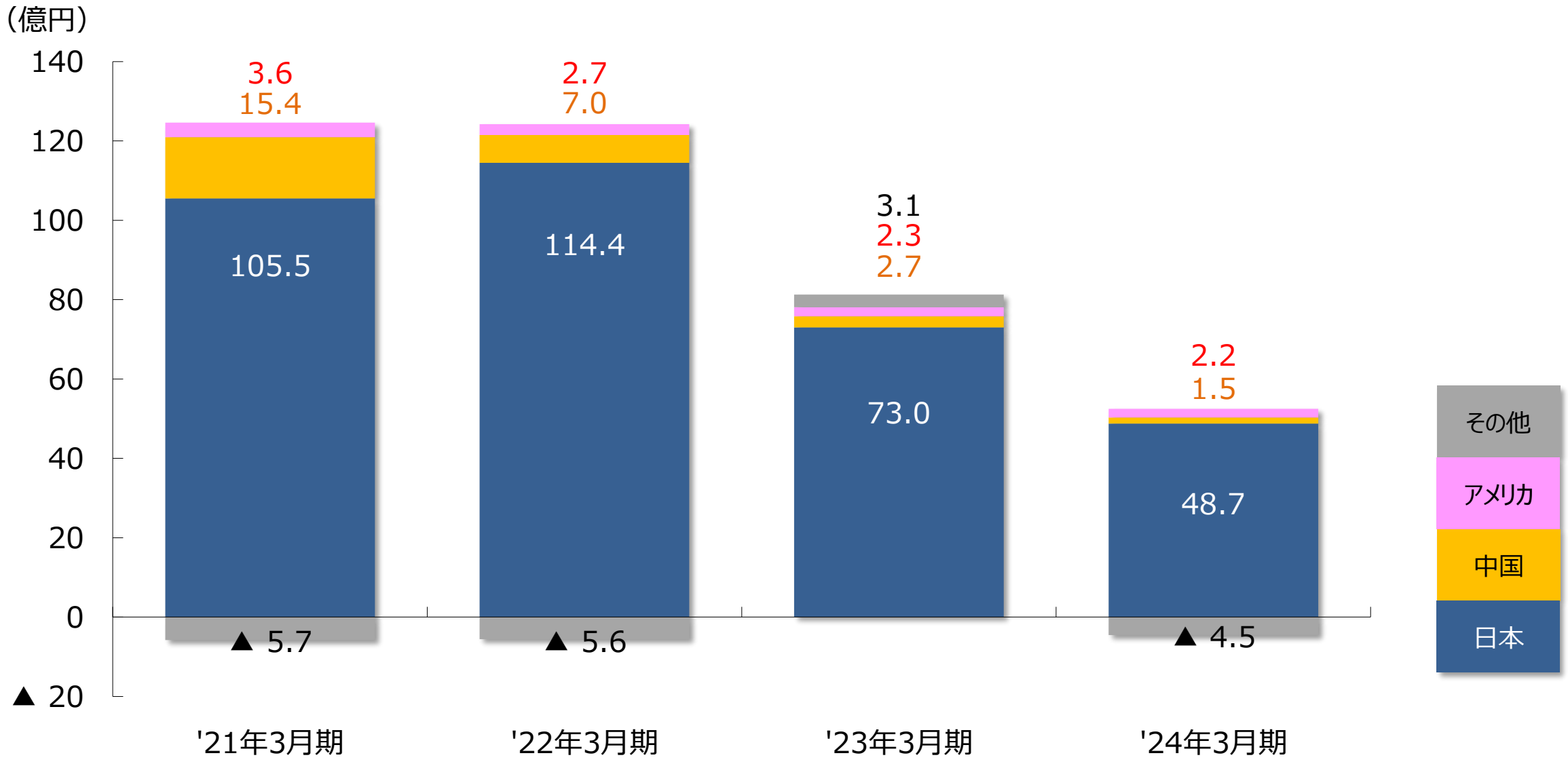
海外売上高の推移（四半期）



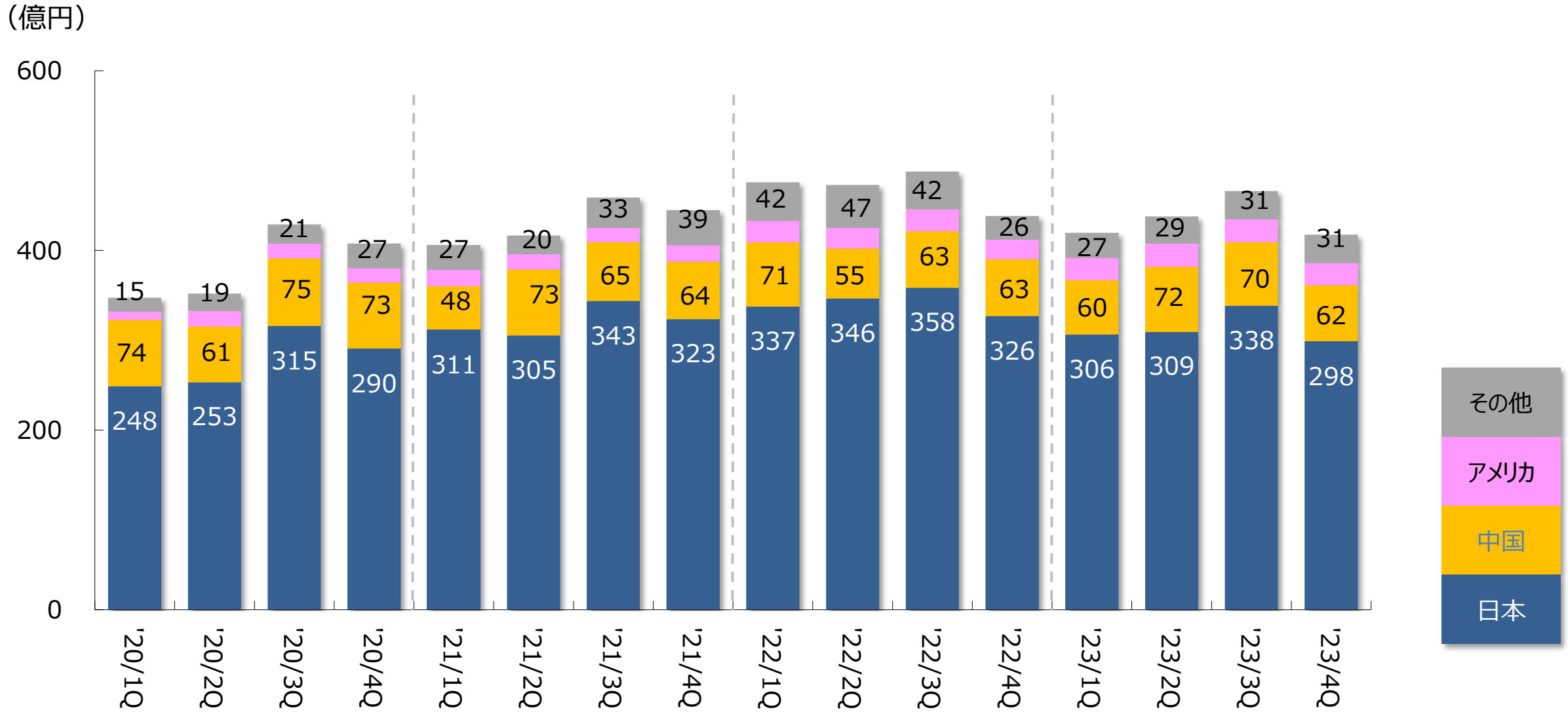
連結所在地別売上高の推移（単純合算）



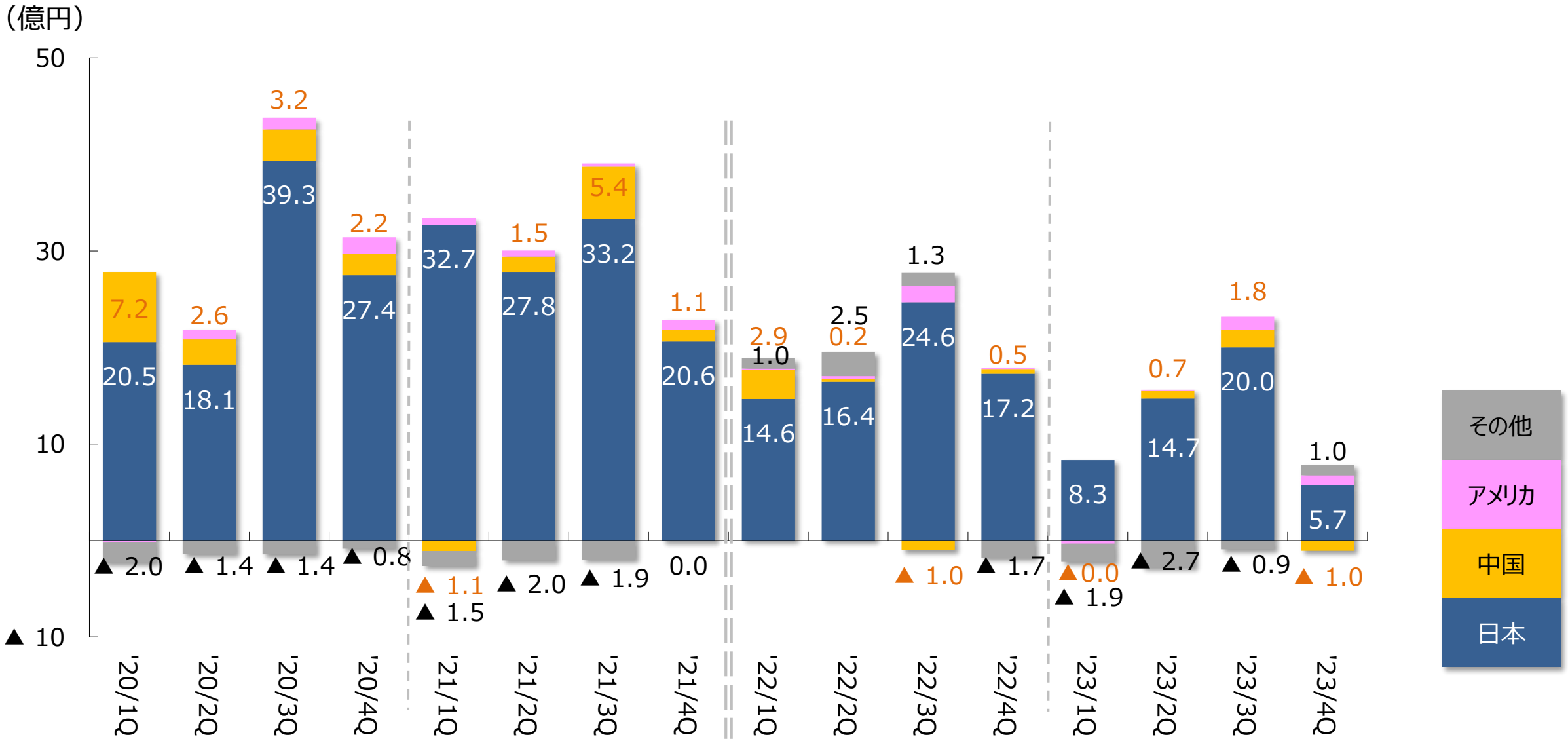
連結所在地別営業利益の推移（単純合算）



連結所在地別売上高の推移（単純合算）

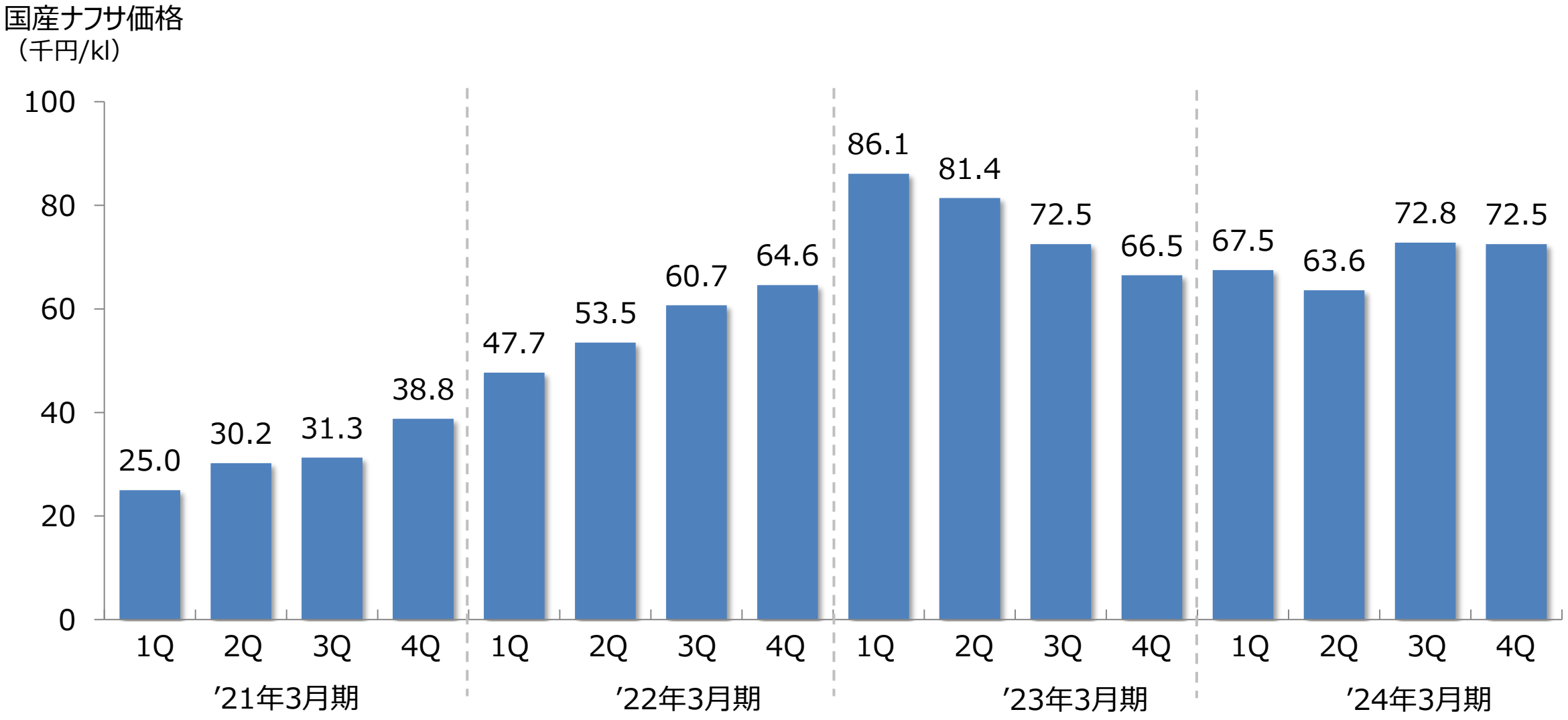


連結所在地別営業利益の推移（単純合算）



＊一部勘定科目の取り扱いの変更を受け、'21/4Q以前は組み換え前、'22/1Q以降は組み換え後の数値を表示しております。

国産ナフサ価格の推移



（出典：財務省貿易統計）